

YAESU

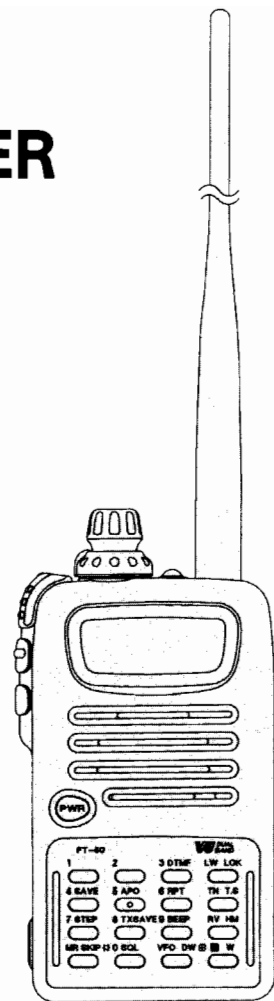
DUAL BAND HANDIE TRANSCEIVER

FT-50

取扱説明書

ご使用の前に	5
準備	13
基本的な使いかた	17
知っているると便利な機能	21
応用操作	27
FTT-12実装時の拡張機能	57
セットモード	81
その他	105

この無線機を使用するには、郵政省のアマチュア無線局の免許が必要です。
また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。



このたびはYAESU FT-50デュアルバンド・ハンディ・トランシーバーをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございました。

本製品は厳しい品質管理のもとに生産されておりますが、万一運搬中の事故などにもなう、破損またはご不審な箇所がございましたら、お早めにお買い上げいただきました販売店または最寄りの当社営業所/サービスにお申し付けください。

また、万一故障したときには、お買い上げいただきました販売店または最寄りの当社営業所/サービスまで修理をご依頼ください。当社の営業所/サービスの所在地・電話番号は、この取扱説明書のうら表紙に記載してあります。

なお、修理をご依頼になる場合には、故障の発生状況・症状等を具体的にお知らせください。

●お願い

正しい操作方法をご理解いただくために、お手数でも取扱説明書は最後までお読みくださるようお願いいたします。操作方法に誤りがあると、本製品の性能が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬトラブルや故障の原因になることがあります。

操作方法の誤りが原因で故障を生じた場合には、保証期間中でも有償扱いにさせていただくことがありますので、ご注意ください。

なお、本体背面に貼り付けてある『技術基準適合証明ラベル』を、汚したり剥がしたりしないよう、ご注意ください。

また、本機を改造すると、技術基準適合機外になりますのでご注意ください。

●アフターサービス

◎保証期間はお買い上げの日より1ヵ年です。

本製品には保証書が添付されています。お買い上げいただいた日から1年以内に、取扱説明書に従った正常な使用状態で故障した場合には、無料で修理をお引き受けします。

◎保証書は大切に保管してください。

保証書を紛失しますと、保証期間中に発生した故障でも、保証期間が経過したものとして有償扱いにさせていただきますのでご了承ください。

また、販売年月日・販売店名等の必要事項が記入してない保証書も無効扱いにさせていただきますので、お買い上げいただきました販売店名・お買い上げ年月日等が正しく記入されていることをご確認のうえ、大切に保管してください。

◎保証期間が経過したあとに故障が生じた場合は、ご相談ください。

修理により機能が維持できる場合には有償で修理させていただきますので、お買い上げいただきました販売店または最寄りの当社営業所/サービスにご相談ください。

◎梱包箱も大切に保管してください。

修理や点検のために本製品を運搬する場合は、運搬中の事故やトラブルを防止するため、梱包箱を使用して運搬してください。

●ご愛用者カード

本製品には保証書の他に“ご愛用者カード”も添付しております。今後の製品開発の参考に致しますので、お手数でも必要事項をご記入の上お送りください。

製品の改良のため、取扱説明書の図などが一部製品と異なることがあります。
あらかじめご了承ください。

このセットについて、または他の当社製品についてのお問い合わせは、お近くの当社営業所/サービス宛にお願いいたします。

また、その際には、必ずセットの製造番号（本体背面に貼ってある銘版に記載してあります）を併せてお知らせください。

なお、お手紙をいただくときには、お客様のご住所・ご氏名を忘れずにお書きください。

梱包品	4
-----------	---

ご使用の前に

安全上のご注意	6
取り扱い上のご注意	6
電源について	7
アンテナについて	8
各部の説明	9
ディスプレイの説明	10
FTT-11のキーボード動作説明	11
FTT-12のキーボード動作説明	12

準備

アンテナの取り付けかた	14
電池の入れかた	14
ハンドストラップの取り付けかた	16
ベルトクリップの取り付けかた	16

基本的な使いかた

受信のしかた	18
送信のしかた	20

知っているると便利な操作

スケルチ回路のあわせかた	22
ステップ幅のあわせかた	23
キーボードで周波数をあわせる	24
VFOの切り換えかた	24
送信出力のあわせかた	25
ディスプレイの照明を点灯する	25
TX SAVEのしかた	26

応用操作

レピーター運用	28
リバース操作	28
ホームチャンネル	29
メモリー	29
シンプレックスメモリーのしかた	30
セミデュプレックスメモリーのしかた	31
メモリーチャンネルを呼び出す	32
ダイレクト呼び出しのしかた	32
メモリーチューンのしかた	33
メモリーの内容をVFOに移動する	33
メモリーチャンネルの消しかた	34
メモリーオンリーモード	34
スキャン	36
VFOスキャンのしかた	37
メモリーチャンネルスキャンのしかた	38
メモリーチャンネル スキャンスキップのしかた	38
プログラマブルメモリスキャン (PMS)のしかた	39
トーンエンコーダー	40
デジタルコードスケルチ (DCS) 運用	41
DCSサーチのしかた	42
ARTS機能	43
ARTSを動作させる	44
DTMF機能	46
DTMFメモリーセット	46
DTMFメモリーの呼び出しかた	48
DTMFモードの解除	48
ビープ機能のON/OFF	49
デュアルレシーブ	49
VFOモード時のデュアルレシーブ	50
メモリーモード時のデュアルレシーブ	51
ホームチャンネル時の デュアルレシーブ	52
VFOプライオリティ	53
バッテリーセーブ	54
キーロックのしかた	55
オートマチックパワーオフ (APO)	56

FTT-12を使用したときの機能

キーパッドの取り替えかた	58
音声録音機能	60
録音時間の変更かた	61
マイクからの音声を録音する	62
受信した音声を録音する	63
信号を受信した時自動的に録音する	64
スピーカーで再生する	65
送信しながら再生する	66
ページャー運用	67
ページャーコードについて	67
ページャーコードのあわせかた	68
ページャー呼び出し	69
トリガーページャー呼び出し	70
コードスケルチ呼び出し	71
マニュアル操作による呼び出しかた	72
ページャー待ち受け	73
トリガーページャー待ち受け	74
コードスケルチ待ち受け	75
着呼禁止	76
トーンスケルチ	77
トーンサーチ	78
受信したDTMFコードを表示する	79

セットモード

スケルチ回路のあわせかた	82
送信出力のあわせかた	82
メモリーに名前を付ける	83
サブ表示のON/OFF	84
ARSのON/OFF	84
シフト方向のあわせかた	85
シフト幅のあわせかた	86
VFOデュプレックスのON/OFF	86
レピーターシフトリンク機能の ON/OFF	87
ステップ幅のあわせかた	87
スキャンレジュームの選びかた	88
スキャンストップランプのON/OFF	88
ビーブ音のON/OFF	89
バッテリーセーブのあわせかた	89
TX SAVEのON/OFF	90
オートマチック パワーオフタイムのあわせかた	90
ロックスイッチ動作のあわせかた	91
ベル機能のON/OFF	92
BUSY/ TXランプのON/OFF	93
LAMPスイッチ動作のあわせかた	93
HOME/REVの選びかた	94
TOT時間のあわせかた	95
ビジーチャンネルロックアウトの ON/OFF	96
ARTS時間のあわせかた	97
ARTS動作時のビーブ音ON/OFF	97
CW IDのあわせかた	98
ページャーコード 送出スピードのあわせかた	99
ページャーディレイタイムの あわせかた	100
ページャー呼び出し音の 回数/あわせかた	101
ページャーアンサーバックの あわせかた	102
アンサーメッセージのON/OFF	103

録音チャンネルREC2

時間のあわせかた	103
音声録音機能の書き込み禁止	104

その他

パケット通信	106
バックアップについて	107
リセット	107
クローン操作	108
故障かな?と思ったら	110
アマチュア無線局 免許申請書類の書き方	112
周波数の使用区分について	115
定格	116
オプション	117
索引	118

梱包品

ご使用の前に、梱包品がそろっているかを確認してください。

● FT-50	1	● ハンドストラップ	1
● アンテナ YHA-58	1	● ベルトクリップ CLIP-6	1
● Ni-Cd電池パック FNB-40	1	● 取扱説明書	1
● 標準充電器 NC-60A	1		



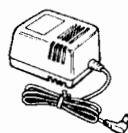
FT-50



アンテナ
(YHA-58)



Ni-Cd電池パック
(FNB-40)



標準充電器
(NC-60A)



ハンドストラップ



ベルトクリップ
(CLIP-6)

FT-50Nは、FT-50本体に“FNB-40” Ni-Cd電池パックと、“NC-60A” 標準充電器を追加したパフォーマンスキットです。

ご使用前に

(ご使用いただく前に必ずお読みください)

安全上のご注意

- 本機の動作電圧範囲は
4.0～16.0Vです。 外部電源を使用して運用するときには7ページの注意事項を良くお読みになって、**過電圧や逆接続**にならないよう、十分ご注意ください。
- 異常？と感じたときは
煙が出ている、変な臭いがする・・・などの故障状態のまま使用すると危険です。 すぐに電源スイッチを切るとともに電池ケースや外部電源などを外し、お買い上げいただきました販売店または最寄りの当社サービスステーションへ修理をご依頼ください。
- セットの内部に触れることは
故障の原因になりますので、内部の点検・調整は、お買い上げいただきました販売店または最寄りの当社営業所/サービスにご依頼ください。
- 水がこぼれたときには
セットのそばに花瓶、化粧品、薬品、飲料水などの、水の入った容器を置かないでください。 万一、内部に水が入った場合は、すぐに電源スイッチを切るとともに電池ケースや外部電源などを外し、お買い上げいただきました販売店または最寄りの当社営業所/サービスにご相談ください。

取り扱い上のご注意

- 変形、変色、結露、破損などの事故を未然に防止するため、次のような場所でのご使用および保管はできるだけ避けてください。
 - 周囲温度が極端に高い場所、または極端に低い場所。
 - 寒い部屋から急に暖かい部屋への移動。
 - 暖房器具の近く。
 - 浴室などの湿気の多い場所。
 - 車のダッシュボードなどの直射日光の当たる場所。
 - 不安定な場所。
- TV・FM放送用送信アンテナの近くでは
放送電波の混入妨害が起こる場合がありますのでご注意ください。
- 無線中継所の近くでは
業務用無線通信に妨害を与える場合がありますのでご注意ください。
- 外部アンテナは
テレビアンテナや電灯線からなるべく離して設置してください。
- ケースが汚れたら
中性洗剤を湿した布などで軽く拭いて汚れを落とし、乾いた布で拭き取ります。 シンナーやベンジンはケースを傷めますので、絶対に使用しないでください。

電源について

本機には、乾電池ケース（FBA-15）や、各種のNi-Cd電池パックを用意しておりますので、運用時間や使用目的にあわせてご使用ください。

また、本機にはオプションとしてシガープラグ付外部電源用アダプター“E-DC-5B”や、外部電源用ケーブル“E-DC-6”を用意しておりますので、外部電源（DC11.0V～16.0V）を使用して運用することもできます。外部電源を使用して運用するときには8ページの注意事項を良くお読みになり、過電圧や逆接続等に十分注意して運用してください。

また、電源電圧が低下すると、ディスプレイに“”の表示が点滅して注意を促します。なお、電源電圧が低下すると、ディスプレイの表示が薄くなったり、送信出力が低下したりして、本機の性能を十分に発揮できなくなりますので、電池の交換や充電または電源回路の点検等を行ってください。



◎電池を交換するときには、必ず4本とも同じ種類の新しい電池に交換してください。

古い電池や種類の異なる電池と混用すると、電池の寿命が短くなってしまいます。

◎FBA-15はマンガン電池およびアルカリ電池用の電池ケースです。それ以外の電池では絶対に使用しないでください。

◎Ni-Cd電池パックの底面にある端子が汚れていると、接触不良などが原因で正常な充電を行うことがなくなる場合がありますので、時々乾いた布や綿棒などで清掃を行ってください。



オプションのNi-Cd電池パック（FNB-40 / 41 / 42 / 49）に使用しているニカド電池は、リサイクル可能な貴重な資源です。不要になったNi-Cd電池パックは廃棄せず、リサイクルにご協力ください。

外部電源使用時の注意事項

- 本機を外部電源で使用する場合には、必ずオプションのシガープラグ付外部電源用アダプター“E-DC-5B”や、外部電源ケーブル“E-DC-6”を使用し、出力電圧が11.0V～16.0Vの範囲内にある直流電源に接続ください。
- オプションのNi-Cd電池パックを取り付けているときに外部電源を接続すると、自動的にNi-Cd電池パックにも充電されます。Ni-Cd電池パックの過充電により発生する事故を未然に防止するため、Ni-Cd電池パックを取り付けたときには、15時間以上外部電源で運用しないでください。なお、Ni-Cd電池パックを標準充電するためには、Ni-Cd電池パックの端子電圧に対して、約3.4V以上高い電圧が取り出せる外部電源が必要です。端子電圧が9.6VのFNB-42を標準充電する場合には、出力電圧が13.0V以上の外部電源が必要になります。
- FBA-15（マンガン電池およびアルカリ電池専用の電池ケース）を装着したときには、外部電源用アダプターを接続しても、充電回路は動作しない構造になっています。
- 外部電源用アダプターの取り付け/取り外しは、必ず電源“OFF”の状態で行ってください。

アンテナについて

本機のアンテナインピーダンスは、50Ω系の負荷に整合するように設計してあります。したがって、付属のアンテナでなくても、アンテナ端子に接続する点のインピーダンスが50Ωの144MHz/430MHz帯用アンテナであれば、どのような型式のアンテナでも使うことができます。

なお、外部アンテナを使用するときには、良質の50Ω系同軸ケーブルを使用し、本機とアンテナの間を最短距離で接続してください。

各部の説明

DIALツマミ (周波数やメモリーチャンネルを
あわせるときにまわします)

BUSY/TXランプ (送信すると赤く、信号を受信すると
緑色に点灯します)

VOLツマミ (☞ 18ページ)

アンテナ接続用のSMA型コネクター

PTTスイッチ (☞ 20ページ)

ディスプレイ (☞ 10ページ)

MONIスイッチ (☞ 22ページ)

MIC/EARジャック (☞ 117ページ)

LAMPスイッチ (☞ 25ページ)

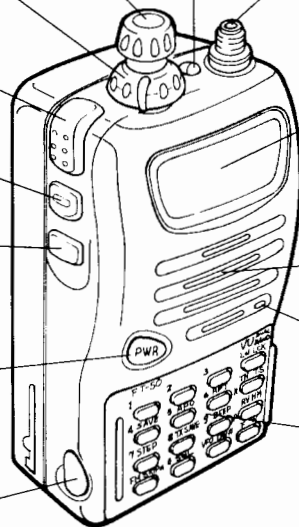
スピーカー

PWRスイッチ (☞ 18ページ)

マイクロホン (☞ 20ページ)

外部電源端子 (☞ 8ページ)

キーボード (☞ 11, 12ページ)



ホームチャンネルのときに
表示します
(☞ 29ページ)

トーンエンコーダーまたはトーンスケルチが
動作中に表示します
(☞ 40, 77ページ)

DCSが動作中に表示します
(☞ 41ページ)

メモリーチューンが
動作中に表示します
(☞ 33ページ)

現在のVFOを表示します
(☞ 24ページ)

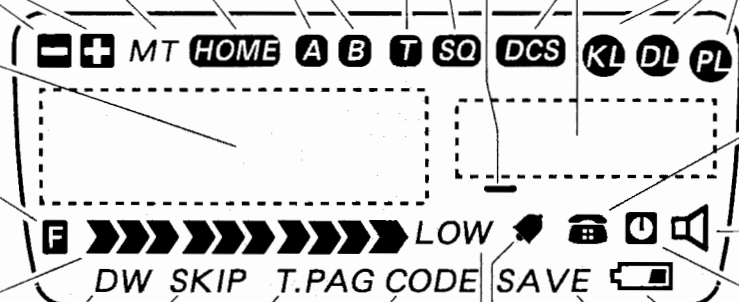
着呼禁止のときに
消灯します
(☞ 76ページ)

VFO Bの周波数などを
表示します
(☞ 84ページ)

シフト方向を
表示します
(☞ 85ページ)

ロック機能が動作中に
表示します
(☞ 55, 91ページ)

現在の周波数などを
表示します



DTMFモードのときに
表示します
(☞ 46ページ)

ファンクション動作
中に表示します

MONIスイッチを押すと
表示します
(☞ 22ページ)

受信した信号の強さを
表示します

オートマチックパワー
オフが動作中に表示し
ます (☞ 56ページ)

デュアルレシーブが
動作中に表示します
(☞ 49ページ)

コードスケルチが
動作中に表示します
(☞ 71ページ)

ベル機能が動作中に
表示します
(☞ 92ページ)

電源電圧が低下すると
表示します
(☞ 7ページ)

メモリーチャンネル
スキップが動作中に
表示します (☞ 38ページ)

トリガーページャー
またはページャーが
動作中に表示します
(☞ 69, 70ページ)

LOWパワーのときに
表示します
(☞ 25ページ)

バッテリーセーブまたは
TX SAVEが動作中に
表示します (☞ 26, 54ページ)

FTT-11のキーボード動作説明

注 各キーは、押しかたにより動作が異なる場合がありますので説明文に従って操作を行ってください

単独で押すと  W キーを押した後に続けて押す 送信中に押すと	1  数字キーの 1 設定無し DTMF信号の "1"	2  数字キーの 2 設定無し DTMF機能の "2"	3 DTMF  数字キーの 3 DTMFモードのON/OFF DTMF信号の "3"	LW LCK  LOWパワー・HIGHパワーの切り換え キーロックのON/OFF DTMF信号の "A"
	4 SAVE  数字キーの 4 バッテリーセーブ設定 DTMF信号の "4"	5 APO  数字キーの 5 オートマチック パワーオフ設定 DTMF信号の "5"	6 RPT  数字キーの 6 シフト方向の設定 DTMF信号の "6"	TN T.S  T $\rightarrow$ DCS ・トーン周波数設定 (Tが表示時) ・DCSコード設定 (DCS表示時) DTMF信号の "B"
	7 STEP  数字キーの 7 ステップ幅の設定 DTMF信号の "7"	8 TX SAVE  数字キーの 8 TX SAVE機能の設定 DTMF信号の "8"	9 BEEP  数字キーの 9 ビーブ音のON/OFF DTMF信号の "9"	RV HM  ホームチャンネルに移行 (REVに設定時はリバース運用) リバース運用に移行 (REVに 設定時はホームチャンネルに移行) DTMF信号の "C"
	MR SKIP  ・メモリーモードの呼び出し (VFOモード時) ・メモリーチューン動作 (メモリーモード時) メモリスキャン動作 (メモリーモード時) メモリーチャンネルスキップ (メモリーモード時) DTMF信号の "*"	0 SQL  数字キーの 0 設定無し スケルチ回路調整 DTMF信号の "0"	VFO DW  ・VFOの呼び出し (メモリーモード時) ・VFO A/ VFO Bの切り換え (VFOモード時) VFOスキャン動作 (VFOモード時) デュアルレシーブ DTMF信号の "#"	 F W ファンクションキー メモリー書き込み時のチャ ンネル設定 ファンクション解除 DTMF信号の "D"

FTT-12のキーボード動作説明

注 各キーは、押しかたにより動作が異なる場合がありますので説明文に従って操作を行ってください

単独で押すと  w キーを押した後に続けて押すと 送信中に押すと	1 PAGE  数字キーの 1 PAGE ➡ T.PAGE ➡ CODE DTMF信号の "1"	2 CODE  数字キーの 2 PAGEコードの設定 DTMF信号の "2"	3 DTMF  数字キーの 3 DTMF機能のON/OFF DTMF信号の "3"	LW LCK  LOWパワー・HIGHパワーの切り換え キーロックのON/OFF DTMF信号の "A"
単独で押すと 0.5秒以上押すと  w キーを押した後に続けて押すと 送信中に押すと	4 SAVE  数字キーの 4 設定無し バッテリーセーブ設定 設定無し DTMF信号の "4"	5 APO  数字キーの 5 設定無し オートマチックパワーオフ設定 設定無し DTMF信号の "5"	6 RPT  数字キーの 6 設定無し シフト方向の設定 設定無し DTMF信号の "6"	TN T.S  T ➡ T SQ ➡ DCS 録音機能動作 ・トーン周波数設定 (TまたはT SQが表示時) ・DCSコード設定 (DCS表示時のみ) 自動録音機能動作 DTMF信号の "B"
単独で押すと 0.5秒以上押すと  w キーを押した後に続けて押すと 送信中に押すと	7 STEP  数字キーの 7 設定無し ステップ幅の設定 設定無し DTMF信号の "7"	8 TX SAVE  数字キーの 8 設定無し TX SAVE機能の設定 設定無し DTMF信号の "8"	9 BEEP  数字キーの 9 設定無し ビーブ音のON/OFF 設定無し DTMF信号の "9"	RV HM  ホームチャンネルに移行 (REVに設定時はリバース運用) REC 1の内容を再生 リバース運用に移行 (REVに設定時はホームチャンネルに移行) REC 2の内容を再生 DTMF信号の "C"
単独で押すと 0.5秒以上押すと  w キーを押した後に続けて押すと 送信中に押すと	MR SKIP  ・メモリーモードの呼び出し (VFOモード時) ・メモリーチューン動作 (メモリーモード時) メモリスキャン動作 (メモリーモード時) メモリーチャンネルスキップ (メモリーモード時) DTMF信号の "＊"	0 SQL  数字キーの 0 設定無し スケルチ回路調整 DTMF信号の "0"	VFO DW  ・VFOの呼び出し (メモリーモード時) ・VFO A/ VFO Bの切り換え (VFOモード時) VFOスキャン動作 (VFOモード時) デュアルレシーブ DTMF信号の "＃"	 w  ファンクションキー メモリー書き込み時のチャンネル設定 ファンクション解除 DTMF信号の "D"

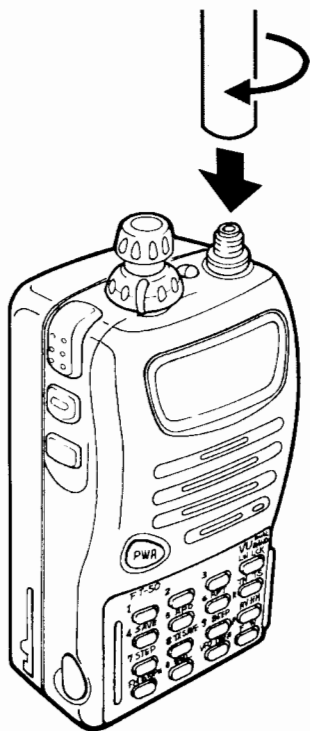
準 備

この項では、実際にFT-50を使用する前に必要な準備について説明します。

アンテナの取り付けかた

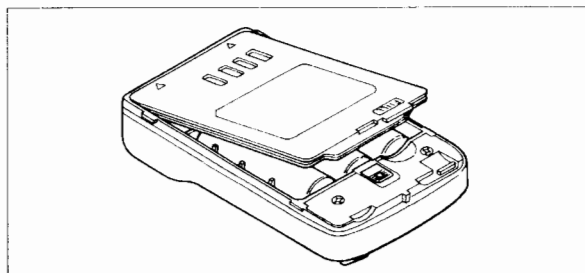
アンテナ底面部をアンテナ端子にあわせて、アンテナを時計（右）方向にまわして取り付けます。

アンテナを反時計（左）方向にまわせば、取り外すことができます。



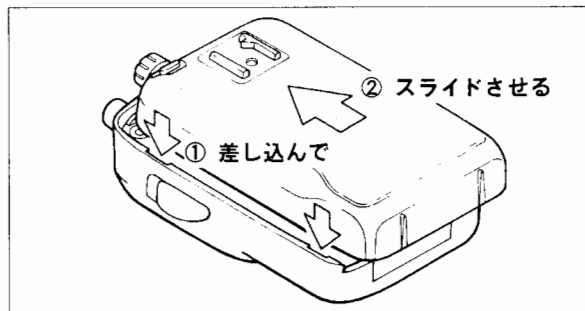
電池の入れかた

1. 単3型乾電池4本を、＋を間違えないように注意し、指定通りに電池ケースに入れます。

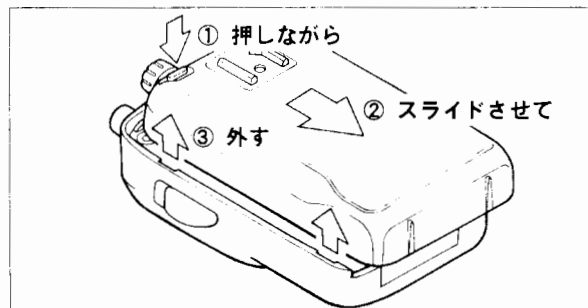


アドバイス 電池を入れる際、＋極から入れると、入れやすくなります。

2. 電池ケースの凸部を本体の溝にあわせて差し込み、電池ケースを矢印の方向に“カチッ”と音がするまでスライドさせて取り付けます。



アドバイス 電池ケースの背面にあるUNLOCKボタンを押しながら、電池ケースを矢印の方向にスライドさせると電池ケースを取り外すことができます。



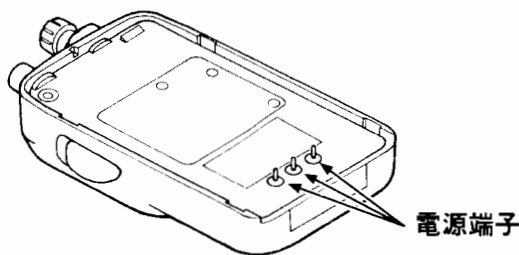
◎電池ケースのフタを閉める際、ゴムパッキンがはみ出さないように注意してください。

◎電池ケースに電池を入れるときには、必ず4本とも同じ種類の新しい電池を使用してください。
古い電池や種類の異なる電池と混用すると、電池の寿命が短くなります。

◎FBA-15はマンガン電池およびアルカリ電池用の電池ケースです。それ以外の電池は絶対に使用しないでください。

◎Ni-Cd電池パック出力端子に、クリップなどの金属片などが触れてショートしないように、十分に注意してください。

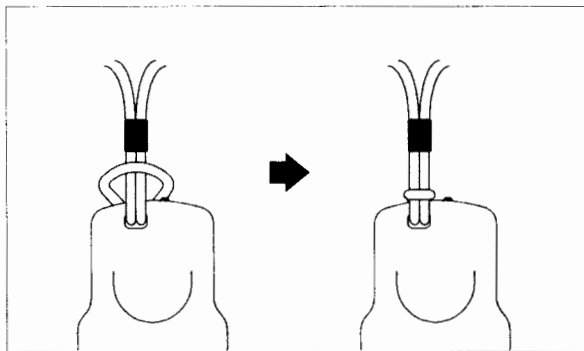
◎下図で示す電源端子には、無理な力を加えたりしないように注意してください。



ハンドストラップの取り付けかた

ハンドストラップは、下図に示すようにベルトクリップにある取り付け穴に通して使用します。

間違った取り付けかたをして、ハンドストラップが外れないようご注意ください。

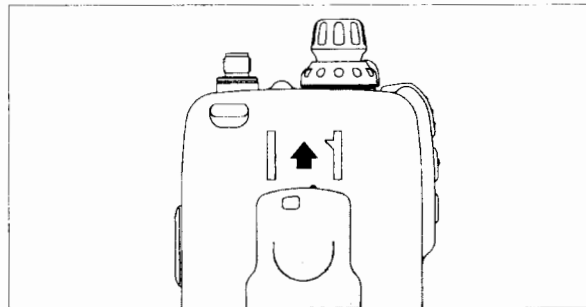


ベルトクリップの取り付けかた

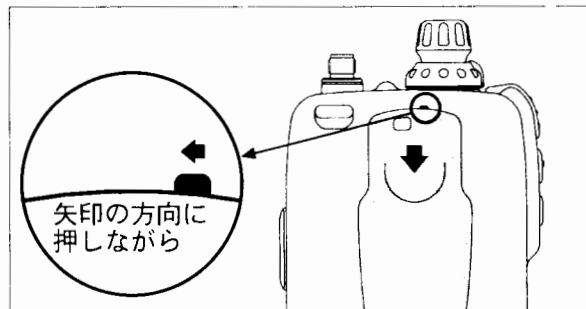
ベルトクリップは本体背面の溝にあわせて“カチッ”と音がするまでスライドさせ、確実に取り付けます。



取り付けが確実でないと、本体が落下する危険があります。



ベルトクリップを取り外すときは、下図で示す部分を矢印の方向に押しながら外してください。



基本的な 使いかた

① 電源を入れる

PWRスイッチを押すと、電源が入ります。

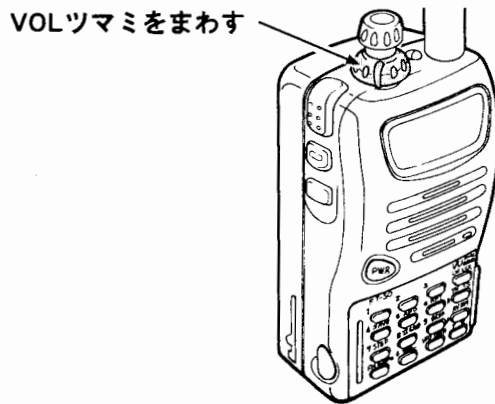


PWRスイッチを0.5秒以上押し続けると、電源が切れます。

アドバイス はじめて電源を入れたときには、上に示すような表示が現れ、ディスプレイの左側に表示された周波数を受信することができます。

② ボリュームをあわせる

VOLツマミをまわしてボリュームをあわせます。



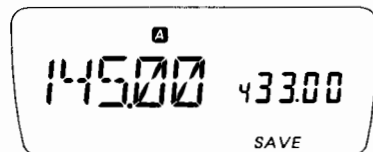
アドバイス ◎時計方向に(右)にまわすとボリュームは大きくなり、反時計方向(左)にまわすとボリュームは小さくなります。

◎信号がないときに聞こえる“ザー”という雑音を消すことができます。(22ページ)

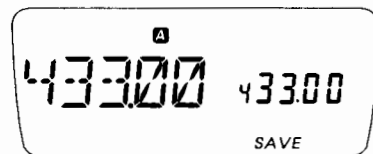
③ 運用するバンドを選ぶ

DIALツマミをワンタッチ(0.5秒以内)で押して、運用するバンドを選びます。

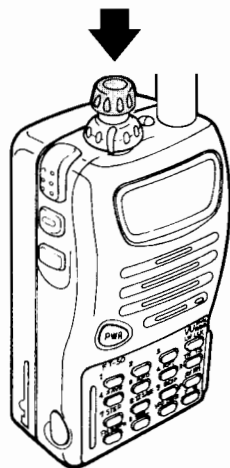
DIALツマミをワンタッチ
(0.5秒以内)で押す



144MHz帯で運用する場合

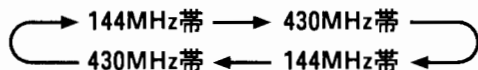


430MHz帯で運用する場合



アドバイス DIALツマミをワンタッチ(0.5秒以内)

で押すたびに、運用バンドは

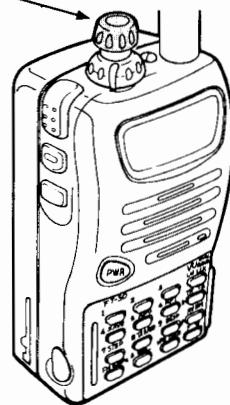


と交互に切り換わります。

④ 周波数をあわせる

DIALツマミをまわして、周波数をあわせませす。

DIALツマミをまわす

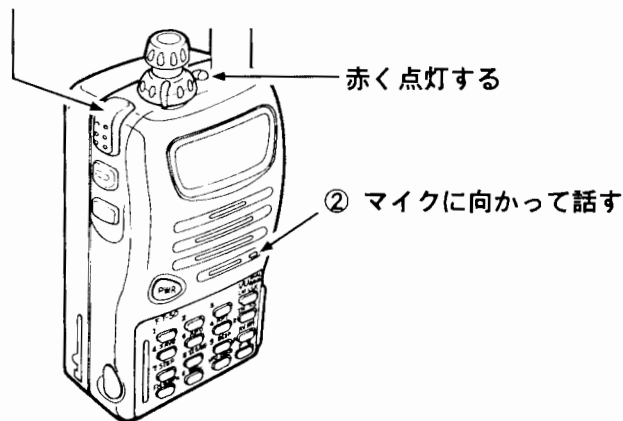


アドバイス 周波数はキーボードでもあわせることができます。(24ページ)

送信のしかた

PTTスイッチを押しながら、マイクに向かって話します。

① PTTスイッチを押しながら



PTTスイッチを離すと受信に戻ります。

アドバイス 送信出力は、4段階に変えることができます。（P. 25, 82ページ）



◎送信するときには、必ずアンテナを接続してください。

◎送信するときには、すでに行われている他の通信に妨害を与えないよう、十分ご注意ください。

◎長時間送信し続けると過熱防止回路が働き、送信出力が自動的にローパワーに下がります。

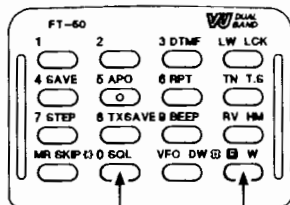
また、過熱防止回路が働いている状態でさらに送信を続けると、“ピピッ”と電子音を発して強制的に受信に戻り、セット内部の温度上昇による故障を未然に防ぎます。

過熱防止回路により強制的に受信状態になったときには、“本機の電源をOFFにする”か“少しの間受信状態を保つ”かして、セット内部の温度が下がるまで本機を休ませてください。

知っていると 便利な操作

この項では、さらに便利にFT-50を使いこなすための操作について説明します。

スケルチ回路のあわせかた

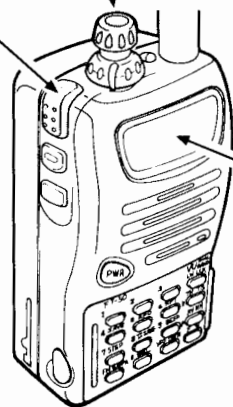


② 0 SQLキーを押す

① **W**キーをワンタッチ
(0.5秒以内)で押す

③ DIALツマミをまわしてあわせる

④ PTTスイッチを押す



スケルチ回路とは、信号がないときに出るFM特有の“ザー”という雑音を消す回路のことをいいます。

スケルチレベルは、SQL 0 からSQL 15までの16段階あり、数字が大きくなるほど、弱い信号を受信できなくなります。

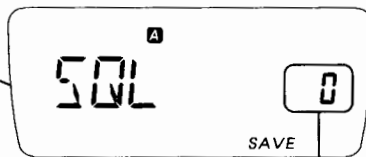


Wキーは、長く押し続けるとメモリー書き込みモードになりますので、0.5秒以内で押すようにしてください。

アドバイス

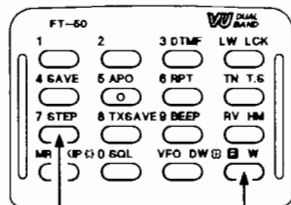
◎スケルチ回路は、セットモードでもあわせることができます。 (82ページ)

◎本体側面のMONIスイッチを押すと、押ししている間スケルチを開くことができます。



あわせてあるスケルチ
レベルが表示される

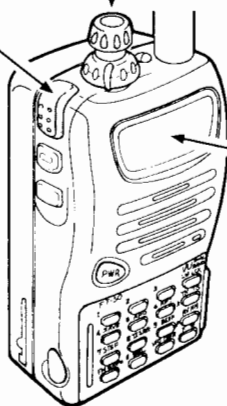
ステップ幅の変えかた



- ② 7 STEPキーを押す
- ① **F** Wキーをワンタッチ
(0.5秒以内)で押す

- ③ DIALツマミをまわしてあわせる

- ④ PTTスイッチを押す



ステップ幅とは、DIALツマミで周波数をあわせる
ときの周波数変化量のことをいいます。

工場出荷時には 20kHz にあわせてありますが、

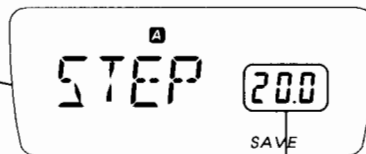
5 / 10 / 12.5 / 15 / 20 / 25 / 50kHz

の中から、希望のステップ幅に変えることができ
ます。



F Wキーは、長く押し続けるとメモリー書き
込みモードになりますので、0.5秒以内で押す
ようにしてください。

アドバイス ステップ幅は、セットモードでもあ
わせることができます。
(87ページ)



あわせてあるステップ幅が
表示される

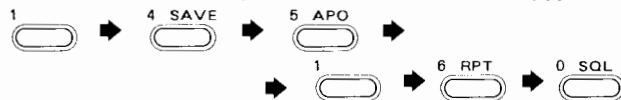
キーボードで周波数をあわせる

あわせたい周波数を、100MHzの桁から入力します。



周波数を145.16MHzにあわせたいとき。

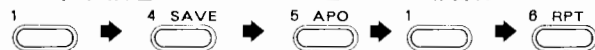
ステップ幅を 5 / 10 / 15kHzにあわせている場合は



ステップ幅を 12.5 / 25kHzにあわせている場合は



ステップ幅を 20kHzにあわせている場合は



とキーボードを押します。



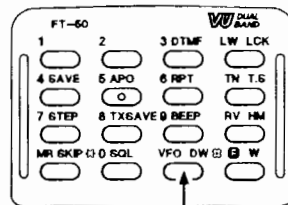
ステップ幅を50kHzにあわせている場合、10kHzの桁は 2 CODE 5 APO 7 STEP 0 SQL キー

以外はあわせることができます。

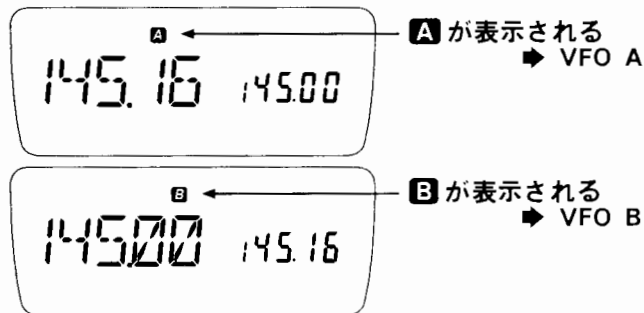
アドバイス 入力の途中で VFO DW キーを押すと、それ以下の桁が“0”で設定されます。

VFO の切り換えかた

VFO DW キーをワンタッチ（0.5秒以内）で押すたびに VFOを切り換えることができます。



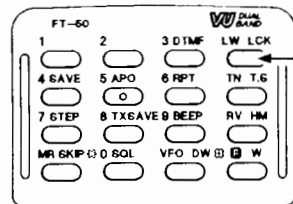
ワンタッチ（0.5秒以内）で押す



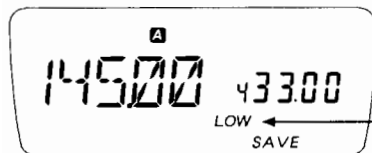
VFO FWキーは、長く押し続けるとスキャンがはじまりますので、0.5秒以内で押すようにしてください。

VFO (VFOモード) とは、DIAL ツマミやキーボードで、希望の周波数にあわせて使えるモードです。

送信出力の変えかた



LW LCKキーを押す



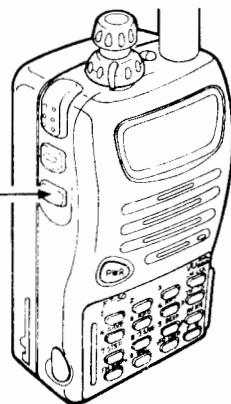
LOWが表示される

再び **LW LCK** キーを押すと、送信出力がハイパワーに戻ります。

アドバイス ローパワーの出力は3つの中から選ぶことができます。
(82ページ)

		乾電池	FNB-40/49	FNB-41/42	外部電源 (12V時)
H1	144MHz帯	約2.0W	約2.5W	約5.0W	約5.0W
	430MHz帯	約1.5W	約2.0W	約5.0W	約5.0W
L3	144MHz帯	約2.0W	約2.5W	約2.8W	約2.8W
	430MHz帯	約1.5W	約2.0W	約2.8W	約2.8W
L2	144/430MHz帯	約1.0W	約1.0W	約1.0W	約1.0W
L1	144/430MHz帯	約0.1W	約0.1W	約0.1W	約0.1W

ディスプレイの照明を点灯する



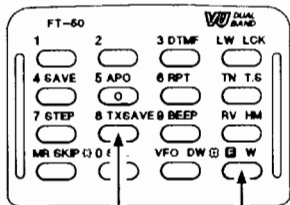
LAMPスイッチを押す

点灯した照明は、再び**LAMPスイッチ**を押すか、約5秒間経過すると、自動的に消灯します。

アドバイス 照明用ランプの点灯のしかたは、下記のどちらかに変えることができます。(93ページ)

- PTTスイッチとMONIスイッチ以外のキーやスイッチを押したときに点灯し、約5秒後に自動的に消灯する。
- 一度点灯すると、再びLAMPスイッチを押すまで点灯を続ける。

TX SAVE のしかた

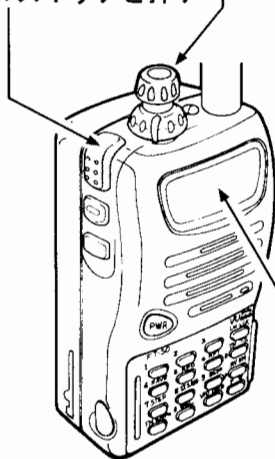


① **W** キーをワンタッチ
(0.5秒以内)で押す

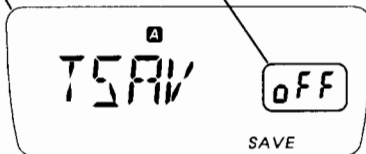
② 8 TXSAVEキーを押す

③ DIALツマミをまわして ON または OFF を選ぶ

④ PTTスイッチを押す



TX SAVEの“ON”
“OFF”が表示される



相手局の信号がフルスケールで入感しているときには自動的に送信出力を下げるので、(下表参照)電池の消耗を少なくすることができます。

送信出力	TX SAVEが動作すると
H1・L3	L2
L2・L1	L1



◎相手の送信が終わってから、2秒以内に送信を行わないと、TX SAVEは動作しません。

◎**W** キーは、長く押し続けるとメモリー書き込みモードになりますので、0.5秒以内で押すようにしてください。

アドバイス

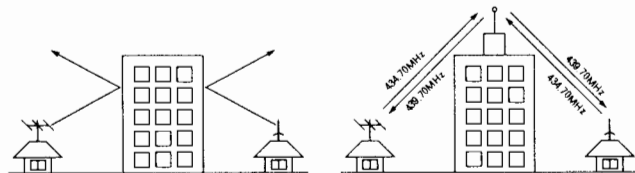
◎TX SAVEが“ON” のときには、送信中ディスプレイに“SAVE” の表示が点滅します。

◎TX SAVEは、セットモードでも“ON/OFF” することができます。
(90ページ)

応用操作

レピーター運用

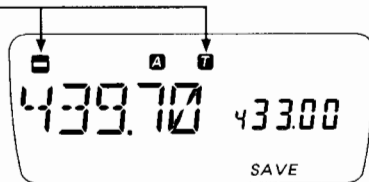
建物や山などの障害物で、電波が相手に届かず交信ができない場合、レピーター（自動中継局）を使うことにより、相手局と交信することができます。



本機はARS (Automatic Repeater Shift) 機能により、受信周波数をレピーター局の周波数にあわせて送信するだけで、自動的に88.5Hzのトーン信号を発しながら受信信号より5 MHz低い周波数で送信状態になりますので、簡単にレピーター運用が行えます。

受信周波数をレピーター局の周波数帯 (439.00~440.00MHz) の中にあわせると、レピーター運用が行えます。

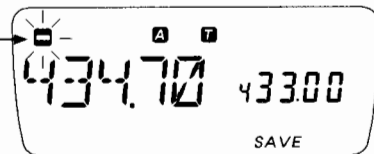
点灯する



リバース操作

レピーター運用時に **F** **W** キーをワンタッチ (0.5秒以内) で押し、ディスプレイに **F** が点灯している間 (約 5 秒間) に **RV** **HM** キーをワンタッチ (0.5秒以内) で押すと、送受信周波数を一時的に反転することができます。

点滅する



もう一度 **F** **W** キーをワンタッチ (0.5秒以内) で押し、ディスプレイに **F** が点灯している間 (約 5 秒間) に **RV** **HM** キーをワンタッチ (0.5秒以内) で押すと、リバース操作は取り消されます。

アドバイス リバース操作で相手局の信号が十分に受信できるようであれば、レピーターを使用せずに、レピーター局の周波数帯以外の周波数にあわせて交信を行ってください。

ホームチャンネル

ホームチャンネルには、不特定多数の局を呼び出すときに使用する周波数が登録されています。(工場出荷時は、145.00MHzと433.00MHzの周波数にあわせてあります)

RV HM



キーをワンタッチ(0.5秒以内)で押すと、登録内容を読み出すことができます。

アドバイス

ホームチャンネルに登録された周波数を変えることができます。(83 30, 31ページ)

メモリー

本機には、運用周波数のほかにレピーター運用情報やデジタルコードスケルチ運用情報なども同時に記憶することのできる、110チャンネル(チャンネル番号1~100, L1~L5, U1~U5)のメモリーチャンネルがあります。

なお、メモリーチャンネルの表示を、最大4文字のアルファベットあるいは、数字などで表示させることができます。(83 83ページ)

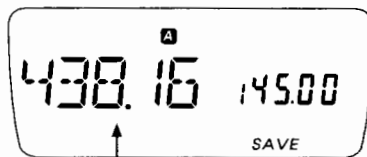


メモリーチャンネル, L1~L5, U1~U5はプログラマブルメモリースキャン(83 39ページ)用のチャンネルに割り当てられます。

シンプルックス・メモリーのしかた

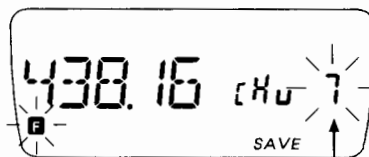
メモリーチャンネルに送受信周波数が同じ周波数をメモリーします。

1. メモリーしたい周波数にあわせます。



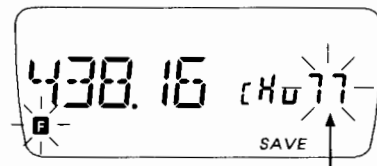
メモリーしたい周波数

2.  キーを0.5秒以上押し続けると点滅するメモリーチャンネル番号が現れます。



メモリーチャンネル番号

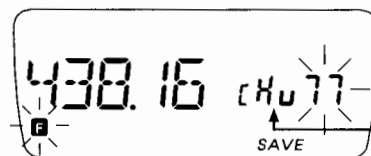
3. メモリーチャンネル番号が点滅している間(約5秒間)にDIALツマミをまわして、メモリーしたいメモリーチャンネル番号にあわせます。



メモリーしたいチャンネル番号にあわせる



メモリーチャンネル番号表示が“CHU **”のチャンネルが、何もメモリーされていないチャンネルです。



“CHU”の表示

4. 最後に  キーをワンタッチ(0.5秒以内)で押して終了です。

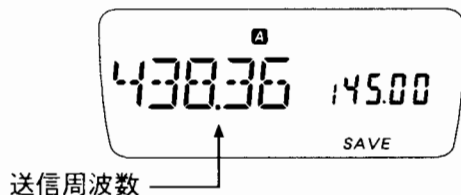
アドバイス

1. 2. の操作を行った後に  キーをワンタッチ(0.5秒以内)で押すと、ホームチャンネルにメモリーすることができます。

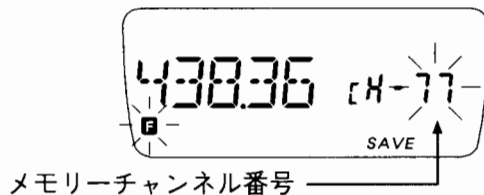
セミデュプレックス・メモリーのしかた

受信周波数と送信周波数が異なる2つの周波数を、1つのメモリーチャンネルにメモリーします。

1. まず初めに、前記で説明した“シンプレックス・メモリーのしかた”の方法で、受信周波数をメモリーします。
2. 次に、送信周波数をあわせます。



3.  キーを0.5秒以上押し続けるとディスプレイに点滅するメモリーチャンネル番号が現れます。



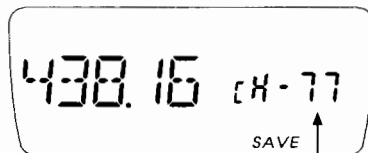
4. PTTスイッチを押しながら  キーをワンタッチ(0.5秒以内)で押して終了です。

アドバイス 1. 2. の操作を行った後に  キーをワンタッチ(0.5秒以内)で押すと、ホームチャンネルにメモリーすることができます。

メモリーチャンネルを呼び出す

メモリーチャンネルにメモリーされているデータで運用することを、“メモリーモード”と呼びます。

1.  キーをワンタッチ（0.5秒以内）で押すと、メモリーチャンネルが呼び出されます。



メモリーチャンネル番号

2. DIALツマミをまわして、希望するメモリーチャンネルにあわせませう。

アドバイス ◎セミデュプレックス・メモリーを呼び出したときにリバース操作（ 28ページ）を行うと、送受信周波数を一時的に反転することができます。

◎メモリーモードは、次のいずれかの方法により解除できます。

- ★  キーをワンタッチ（0.5秒以内）で押すとVFOモードに切り換わります。
- ★  キーをワンタッチ（0.5秒以内）で押すとホームチャンネルに切り換わります。

ダイレクト呼び出しのしかた

呼び出したいメモリーチャンネルの番号をキーボードで押すだけで、メモリーチャンネルを呼び出すことができます。



メモリーチャンネル“CH-77”を呼び出す

場合

数字キーを



メモリーチャンネル番号の一の位

メモリーチャンネル番号の十の位

の順で押します。

アドバイス 下記に示すメモリーチャンネルは、ダイレクトで呼び出すことはできません。

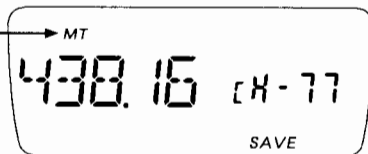
- ★メモリーしていないメモリーチャンネル
- ★メモリーチャンネル“123”のように、存在しないメモリーチャンネル
- ★メモリーチャンネル L1～L5および U1～U5

メモリーチューンのしかた

メモリーされている運用周波数を、一時的に変えることができます。

1. メモリーモードで運用中に  キーをワンタッチ (0.5秒以内) で押す。

“MT” が点灯



2. 希望の周波数に合わせる。

メモリーチューンは、 キーをワンタッチ (0.5秒以内) で再度押すことによりやめることができます。



セミデュプレックス・メモリーをしたメモリーチャンネルの、送信周波数を変えることはできません。

メモリーの内容をVFOに移動する

1. メモリーモード時に  キーを0.5秒以上押し続けます。
2. メモリー番号が点滅している間 (約 5 秒間) に、 キーを押します。
3. 以上でメモリーモードの内容をVFOモードに移すことができます。

メモリーチャンネルの消しかた

メモリーチャンネルにメモリーした情報を一時的に消すことができます。(ただし、メモリーチャンネル“[H-1]”を消すことはできません)

1. メモリーモード時に  キーを0.5秒以上押し続けます。
2. **DIALツマミ**をまわして、消したいメモリーチャンネルにあわせます。
3.  キーを押します。

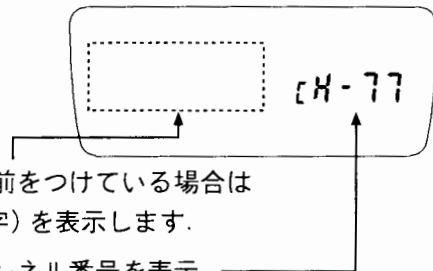
以上でメモリーチャンネルを一時的に消すことができます。

アドバイス

1. ~ 3. の操作をくり返すことにより、消したメモリーを復活させることができます。

メモリーオンリーモード

本機の動作をメモリーモードでのみ動作させる方法で、ディスプレイの表示を周波数表示ではなく、下に示すようにチャンネル表示で行います。



メモリーに名前をつけている場合はその名前(文字)を表示します。

メモリーチャンネル番号を表示



数字キーと  キー以外の操作ができなくなります。

(FTT-12使用時の音声録音機能を除く)

1. **PWRスイッチ**を0.5秒以上押して、電源を“OFF”にします。
2. **PTTスイッチ**と**LAMPスイッチ**を同時に押しながら、**PWRスイッチ**を押して、電源を“ON”にします。
3. 以上でメモリーオンリーモードに切り替わります。

メモリーチャンネルは、DIALツマミをまわすか、キーボードで呼び出したいメモリーチャンネル番号を押すことにより、変えることができます。



メモリーチャンネル “EH-27” を呼び出すとき

2 CODE



7 STEP



MR SKIP



と押します。



メモリーチャンネル L1~L5, U1~U5
は、キーボードで呼び出すことはできません。

左記の1. ~ 2. の操作をくり返すことによりメモリーオンリーモードを解除することができます。

スキャン

信号が入感する周波数またはメモリーチャンネルを自動的に捜し出すことができます。

信号を受信するとスキャンは一時停止しますが、一時停止したスキャンを再び開始させる条件は、右の2種類から選ぶことができます。

(工場出荷時には5秒レジュームにあわせてあります)
あわせかたは88ページをご覧ください。

● 5秒レジューム

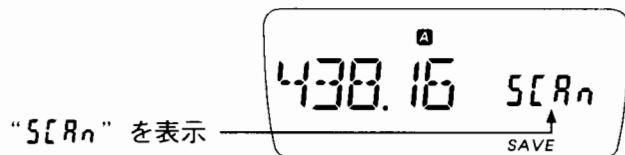
スキャン中に信号が入感すると、スキャンが自動停止して、その周波数またはチャンネルを約5秒間受信し、その後再びスキャンを開始する方法です。
ただし自動停止中でも、信号が無くなると約2秒後に再びスキャンを開始します。

● キャリアレジューム

スキャン中に信号が入感すると、スキャンが自動停止して、その周波数またはチャンネルの信号が無くなるまで継続して受信し、信号が無くなると約2秒後に再びスキャンを開始する方法です。

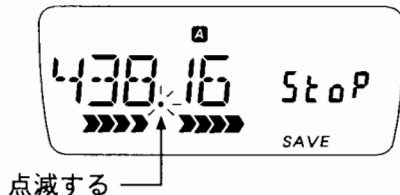
VFO スキャン

VFOモードで運用中に  キーを0.5秒以上押し続けると、スキャンを開始します。



アドバイス ◎スキャン中にDIALツマミをまわすと、スキャン方向を変えることができます。

◎スキャンが一時停止しているときには、“Stop”の表示とともに、周波数表示部のデシマルポイントが点滅します。



◎スキャンが一時停止しているときにDIALツマミをまわすと、直ちにスキャンを再開します。

下記の方法でVFOスキャンをやめることができます。

★ PTTスイッチを押す

★  キーを押す

★  キーをワンタッチ（0.5秒以内）で押す（メモリーモードになります）

★  キーをワンタッチ（0.5秒以内）で押す（ホームチャンネルになります）

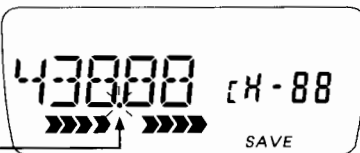
メモリーチャンネルスキャン

メモリーモードで運用中に  キーを0.5秒以上押し続けると、メモリーされたチャンネルだけのスキャンを開始します。

アドバイス ◎スキャン中にDIALツマミをまわすと、スキャン方向を変えることができます。

◎スキャンが一時停止しているときには、周波数表示部のデシマルポイントが点滅します。

点滅する



◎スキャンが一時停止しているときにDIALツマミをまわすと、直ちにスキャンを再開します。

下記の方法でメモリーチャンネルスキャンをやめることができます。

★ **PTTスイッチ**を押す

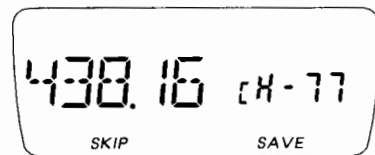
★  キーをワンタッチ（0.5秒以内）で押す（VFOモードになります）

★  キーを押す（押したときのメモリーチャンネルになります）

★  キーをワンタッチ（0.5秒以内）で押す（ホームチャンネルになります）

メモリーチャンネルスキップ

1. スキャンスキップさせたい（受信したくない）メモリーチャンネルを呼び出します。
2.  キーをワンタッチ（0.5秒以内）で押し、ディスプレイに **F** が点灯している間（約5秒間）に  キーを押します。



"SKIP" が点灯する

3. 上記1.～2.を繰り返し、スキャンスキップさせたいすべてのメモリーチャンネルにスキャンスキップセットを行ないます。

上記1.～2.を繰り返すことにより、スキャンスキップを解除することができます。

（ディスプレイの"SKIP"表示が消灯します）

プログラブルメモリスキャン (PMS) のしかた

メモリーチャンネル“[H-L*]”と“[H-U*]”にメモリーした(*は1～5までの任意の番号)受信周波数の間だけをスキャンする操作です。



1. メモリーチャンネル“[H-L*]”にスキャンの下限周波数, “[H-U*]”に上限周波数をメモリーします。

注意 ◎ “[H-L*]”と “[H-U*]”の*は、必ず同じ数字にあわせてください。

◎ 上限周波数と下限周波数の間は、必ず100kHz以上あけるようにしてください。

2. メモリーチャンネル“[H-L*]”または“[H-U*]”を呼び出し、 キーをワンタッチ (0.5秒以内) で押します。(“MT” が点滅します)

3. この状態で  キーを0.5秒以上押し続けると、PMSを開始します。

注意 “[H-L*]” “[H-U*]” のどちらかにメモリーチャンネルスキャンスキップがセットしてあると、PMSは動作しません。

アドバイス ◎ スキャンが一時停止しているときには、デシマルポイントが点滅します。



◎ スキャンが一時停止しているときに **DIAL ツマミ** をまわすと、直ちにスキャンを再開します。

下記の方法でPMSをやめることができます。

- ★ **PTTスイッチ**を押す
- ★  キーをワンタッチ (0.5秒以内) で押す (VFOモードになります)
- ★  キーをワンタッチ (0.5秒以内) で押す (メモリーモードになります)
- ★  キーをワンタッチ (0.5秒以内) で押す (ホームチャンネルになります)

トーンエンコーダー

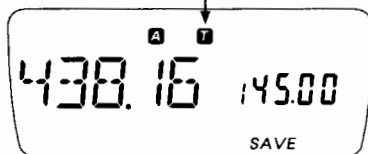
トーンスケルチ運用を行っている局を呼び出すときに使用します。

1.  キーをワンタッチ (0.5秒以内) で押すたびに

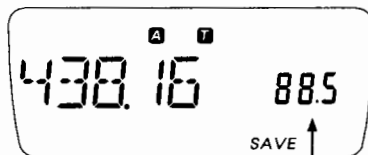


と変わりますので “**T**” を表示させます。

“**T**” を表示させる



2.  キーをワンタッチ (0.5秒以内) で押し、ディスプレイに **F** が点灯している間 (約5秒間) に  キーをワンタッチ (0.5秒以内) で押します。



あわせてあるトーン周波数を表示

3. **DIALツマミ**をまわして、希望するトーン周波数にあわせます。

(工場出荷時は88.5Hzにあわせてあります)



相手局とトーン周波数が同じでないと、呼び出しを行うことはできません。

選ぶことができるトーン周波数 (Hz)

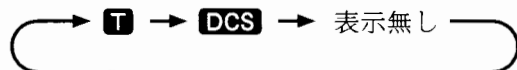
67.0	79.7	94.8	110.9	131.8	156.7	186.2	225.7
69.3	82.5	97.4	114.8	136.5	162.2	192.8	233.6
71.9	85.4	100.0	118.8	141.3	167.9	203.5	241.8
74.4	88.5	103.5	123.0	146.2	173.8	210.7	250.3
77.0	91.5	107.2	127.3	151.4	179.9	218.1	—

4. 再度  キーをワンタッチ (0.5秒以内) で押します。
5. この状態でトーンスケルチ運用を行っている局を呼び出すことができます。

デジタルコードスケルチ (DCS) 運用

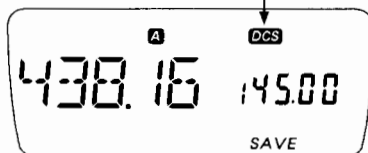
ある特定の局やグループだけを対象に“待ち受け”や“呼び出し”ができます。

1.  キーをワンタッチ (0.5秒以内) で押すたびに

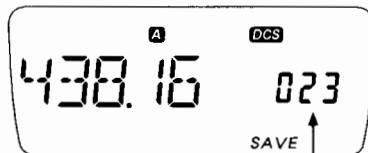


と変わりますので“DCS”を表示させます。

“DCS”を表示させる



2.  キーをワンタッチ (0.5秒以内) で押し、ディスプレイに **F** が点灯している間 (約5秒間) に  キーをワンタッチ (0.5秒以内) で押します。



あわせてあるDCSコードを表示

3. **DIALツマミ**をまわして、希望するDCSコードにあわせます。

(工場出荷時は 023 にあわせてあります)



相手局とDCSコードが同じでないと、交信を行うことはできません。

選ぶことができるDCSコード

023	051	114	143	174	245	266	332	411	452	506	612	703
025	053	115	145	205	246	271	343	412	454	516	624	712
026	054	116	152	212	251	274	346	413	455	523	627	723
031	065	122	155	223	252	306	351	423	462	526	631	731
032	071	125	156	225	255	311	356	431	464	532	632	732
036	072	131	162	226	261	315	364	432	465	546	654	734
043	073	132	165	243	263	325	365	445	466	565	662	743
047	074	134	172	244	265	331	371	446	503	606	664	754

4. 再度  キーをワンタッチ (0.5秒以内) で押します。

5. この状態でDCS運用を行うことができます。

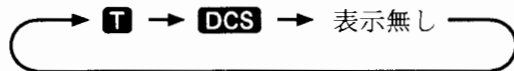
アドバイス DCSコードの異なる信号や、DCSコードを含まない信号は受信することができませんが、**BUSY/TX**インジケータが緑色に点灯し、信号が入感していることを知らせます。

また、このときに**MONIスイッチ**を押せば、その信号を押している間だけ受信することができます。

DCSサーチのしかた

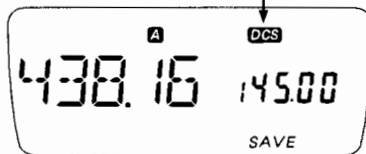
相手局のDCSコードが不明な場合、相手局のDCSコードを捜すことができます。

1.  キーをワンタッチ（0.5秒以内）で押すたびに

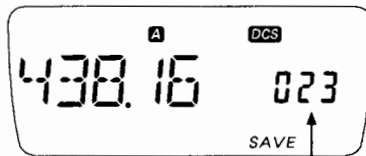


と変わりますので“DCS”を表示させます。

“DCS”を表示させる

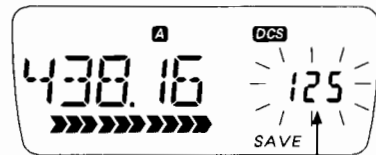


2.  キーをワンタッチ（0.5秒以内）で押し、ディスプレイに **F** が点灯している間（約5秒間）に  キーをワンタッチ（0.5秒以内）で押します。



あわせてあるDCSコードを表示

3.  キーを0.5秒以上押し続けると、DCSサーチがはじまります。
4. 相手局のDCSコードと一致すると、DCSサーチは一時的に停止し、DCSコードがディスプレイに点滅します。



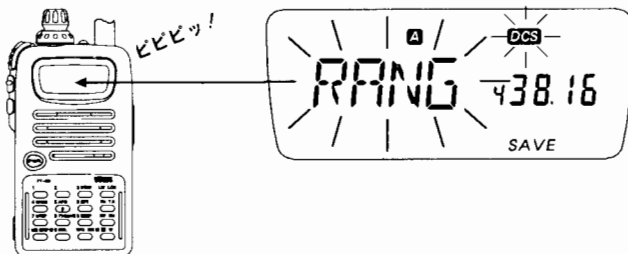
DCSコードが点滅する

5. DCSコードが点滅している間（約5秒間）にPTTスイッチを押すと、DCSサーチは解除され、相手局と交信することができます。

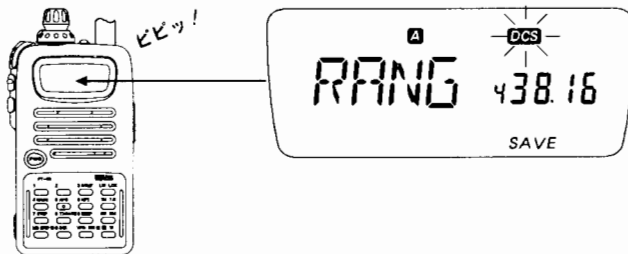
ARTS機能（交信可能圏内チェック機能）

ARTS機能（Auto Range Transponding System）を搭載したトランシーバー同士で運用を行っている場合、お互いに交信可能な状態であるか（距離が離れすぎているか、障害物などで遮られていないか）どうかを自動的に調べ、（確認する信号を定期的に出す）交信可能圏内・圏外の表示を行います。

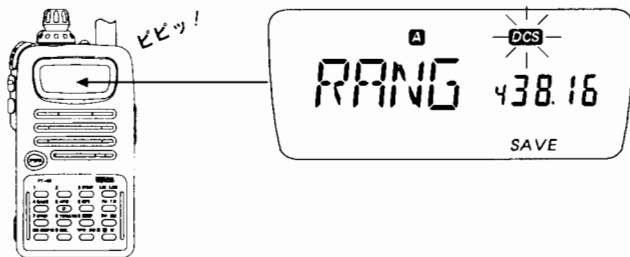
交信可能圏外になると



再び交信可能圏内に入ると



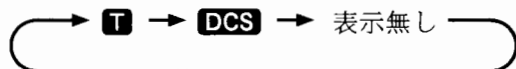
交信可能圏内にいると



ARTSを動作させる

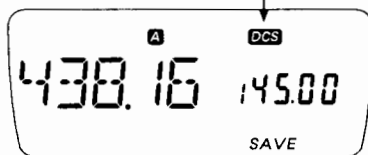
まず初めに、希望のARTSモードを選びます。

1.  キーをワンタッチ(0.5秒以内)で押すたびに

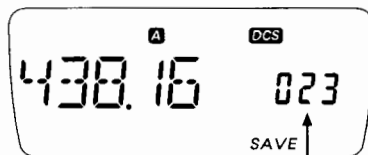


と変わりますので“DCS”を点灯または点滅させます。

“DCS”を表示させる



2.  キーをワンタッチ(0.5秒以内)で押し、ディスプレイに **F** が点灯している間(約5秒間)に  キーをワンタッチ(0.5秒以内)で押します。



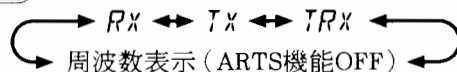
あわせてあるDCSコードを表示

3. DIALツマミをまわして、希望するDCSコードにあわせませす。



相手局と同じDCSコードにあわせないと、ARTS機能は動作しません。

4.  キーを押すたびにARTS機能の動作が、

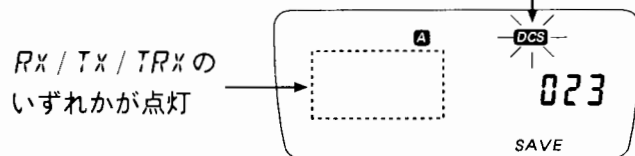


と変化しますので、右ページに記したモードの説明を参考にして、希望の動作状態にあわせませす。

アドバイス ◎通常は *TRX* モードでを使用することをお勧めします。

◎ *RX* / *TX* / *TRX* のいずれかのモードにあわせると、ディスプレイの“DCS”表示が点滅します。

点滅する



RX / *TX* / *TRX* の
いずれかが点灯

5.  キーをワンタッチ(0.5秒以内)で押します。

ARTSを実際に動作させるには

 キーをワンタッチ(0.5秒以内)で押し、ディスプレイに **F** が点灯している間(約5秒間)にDIALツマミを0.5秒以上押し続けると、ARTS機能が動作します。



◎ARTS機能を動作させるときは、バッテリーセーブを“OFF”にしてください。

( 54ページ)

◎ARTS機能が動作中は、周波数を変えることはできません。

◎PTTロックが“ON”になっているときおよびデュアルレシーブが動作中は、ARTS機能は動作しません。

(PTTロック  91ページ)

(デュアルレシーブ  49ページ)

下記の方法でARTS機能をやめることができます。

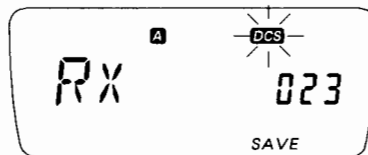
★  キーをワンタッチ(0.5秒以内)で押し、ディスプレイに **F** が点灯している間(約5秒間)にDIALツマミを0.5秒以上押し続ける

★電源を切る

● RXモード

相手からの確認信号を受信し、交信可能圏内外の表示を行います。

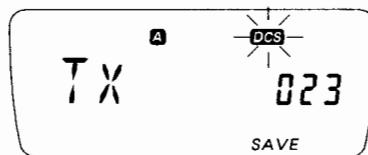
相手に確認信号を送信しませんので、相手のトランシーバーには交信可能圏内外の表示は出ません。



● TXモード

確認信号を送出するだけのモードです。

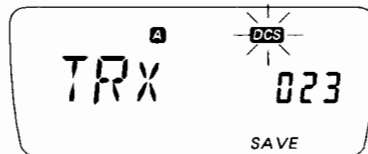
確認信号の受信は行いませんので、交信可能圏内外の表示は行いません。



● TRXモード

確認信号の送信および受信を行います。

相手に確認信号を送信すると共に、相手からの確認信号を受信しますので、交信可能圏内外の表示を行います。



DTMF機能

DTMF信号とは、『Dual Tone Multi Frequency』の頭文字から取った略語で、電話をかけるときに聞こえる“ピッ・ポッ・パッ”音のことをいいます。

なお、このDTMF信号は下表に示すように、2つの周波数の組み合わせから成っています。

	1209Hz	1336Hz	1477Hz	1633Hz
697Hz	1	2	3	A
770Hz	4	5	6	B
852Hz	7	8	9	C
941Hz	*	0	#	D

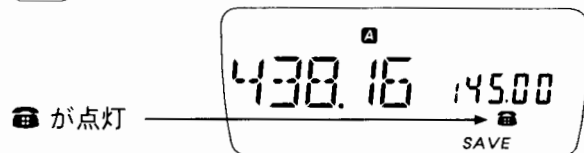
PTTスイッチを押しながら、上表を参考にして希望のキーボードを押すことにより、DTMF信号を送出することができます。

アドバイス DTMFコードを最大16桁までメモリーすることのできる、8チャンネル（チャンネル番号“1”～“8”）のDTMFメモリーチャンネルがあります。

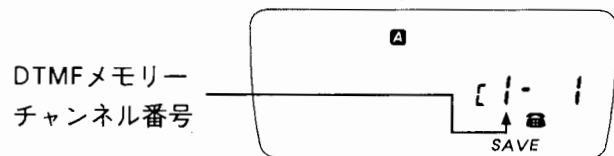
DTMFメモリーセット

DTMFメモリーチャンネルにDTMFコードをメモリーするための操作です。

1.   キーをワンタッチ（0.5秒以内）で押し、ディスプレイに  が点灯している間（約5秒間）に  キーを押します。

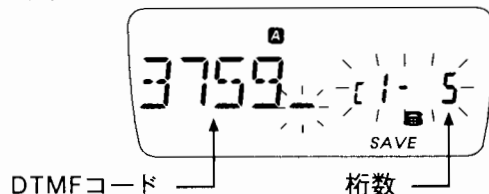


2.   キーを0.5秒以上押し続け、ディスプレイにメモリーチャンネル番号が点滅したら、メモリーしたいDTMFメモリーチャンネルの番号（1～8まで）を数字キーで入力します。



 DTMFメモリーチャンネル“9”は、受信したDTMFコードを表示させるためのチャンネルですので（オプションのキーパッドFTT-12使用時のみ）、DTMFコードをメモリーすることはできません。

3. **FW** キーを0.5秒以上押し続けると、ディスプレイの表示が点滅に変わりますので、メモリーしたいDTMFコードをキーボードより順番に入力して行きます。



アドバイス ◎DTMFコードは、下記の方法でも入力することができます。

- ① DIALツマミをまわして、希望のDTMFコードを選ぶ。
 - ② DIALツマミをワンタッチ(0.5秒以内)で押すと、次の桁に移る。
 - ③ ①と②を繰り返し、DTMFコードを入力する。
- ◎途中で入れ間違えたときは、DIALツマミを0.5秒以上押すことにより、最初の桁から入力をやり直すことができます。
4. 入力が終わったら、**PTTスイッチ**を押します。

アドバイス ◎この状態で**DIALツマミ**をまわすと、メモリーしたDTMFコードを確認することができます。

- ◎4. の操作が終了後、メモリーしたチャンネルの番号を押すと、実際にDTMFコードをスピーカーで鳴らすことができます。

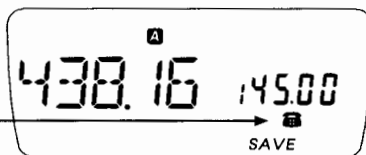
- ◎4. の操作が終了後、**1 PAGE** ~ **8 TX SAVE** のキーを押すと、他のDTMFメモリーチャンネルを呼び出すことができますので、前記3. と4. の操作を繰り返すことにより、他のDTMFメモリーチャンネルにもDTMFコードをメモリーすることができます。

5. **PTTスイッチ**を押して、DTMFメモリーセットは終了です。

DTMFメモリーの呼び出しかた

1.   キーをワンタッチ(0.5秒以内)で押し、ディスプレイに  が点灯している間(約5秒間)に  キーを押します。

 が点灯



2. 送信中に、数字キーでDTMFメモリーチャンネルのチャンネル番号を押すと、そのDTMFメモリーチャンネルにメモリーされているDTMFコードが送出されます。

アドバイス DTMFコードが送出されているときは、PTTスイッチを離しても、送信状態は保持されます。

DTMFモードの解除

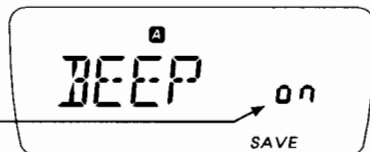
  キーをワンタッチ(0.5秒以内)で押し、ディスプレイに  が点灯している間(約5秒間)に  キーを押すと、ディスプレイの“”表示が消灯し、DTMFモードは解除されます。

ビープ機能のON/OFF

キーボードを押したときのビープ音（ドレミ音）を“ON/OFF”することができます。

1.   キーをワンタッチ（0.5秒以内）で押し、ディスプレイに  が点灯している間（約 5 秒間）に  キーを押します。

ONまたは
OFFの表示



2. この状態でDIALツマミをまわすと、



の動作を繰り返しますので、希望の状態にあわせてください。

3. PTTスイッチを押して終了です。

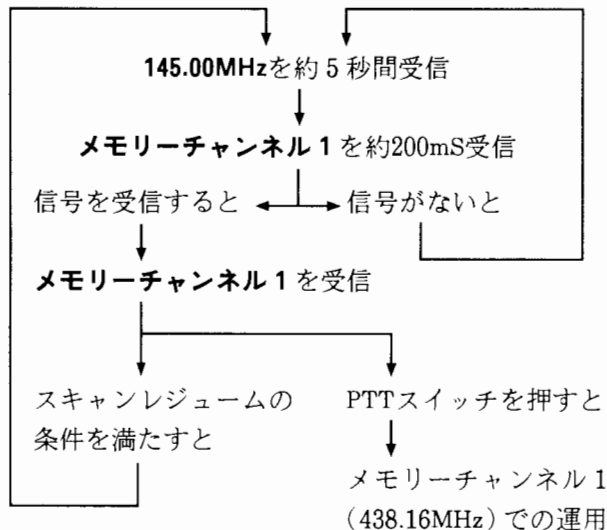
アドバイス ビープ音は、セットモードでもON/OFFすることができます。 (P.89ページ)

デュアルレシーブ

デュアルレシーブとは、VFOモード時、メモリーモード時、またはホームチャンネル運用時で受信中に、約 5 秒間に 1 回メモリーチャンネルを優先的に約200mS受信し、信号を受信した場合はデュアルレシーブを一時停止して信号を受信する“優先チャンネル監視機能”です。



145.00MHzを受信しながら、メモリーチャンネル 1（438.16MHz）をデュアルレシーブすると。



VFO モード時のデュアルレシーブ

VFOであわせた周波数を受信しながら、指定したメモリーチャンネルをデュアルレシーブします。

アドバイス ◎144MHz帯と430MHz帯のように、運用バンドが違って動作させることができます。

◎デュアルレシーブが動作中でも、下記の操作を行うことができます。

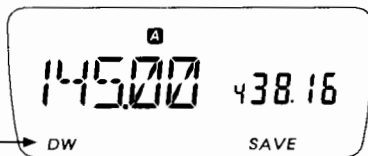
- ・送信操作（ただし送信中は、デュアルレシーブは動作しません）
- ・VFOの周波数を変える

1. デュアルレシーブしたいメモリーチャンネル（優先チャンネル）を呼び出します。

2.  キーをワンタッチ（0.5秒以内）で押して、一度VFOモードに戻します。

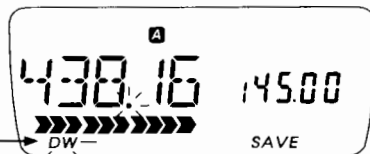
3.  キーをワンタッチ（0.5秒以内）で押し、ディスプレイに **F** が点灯している間（約5秒間）に  キーをワンタッチ（0.5秒以内）で押すと、デュアルレシーブが始まります。

“DW” が点灯



4. スキャンと同じように、優先チャンネルに信号が入感するとデュアルレシーブが一時停止し、スキャンレジュームの条件（ 36ページ）を満たすと、再びデュアルレシーブが動作を始めます。

点減する



5. 優先チャンネルを受信しているときにPTTスイッチを押すと、デュアルレシーブは自動的に解除されて、メモリーチャンネル（優先チャンネル）での送受信操作に切り換わります。

下記の方法でデュアルレシーブをやめることができます。

- ★  キーを押す（VFOモードになります）
- ★  キーをワンタッチ（0.5秒以内）で押す（メモリーモードになります）
- ★  キーをワンタッチ（0.5秒以内）で押す（ホームチャンネルになります）

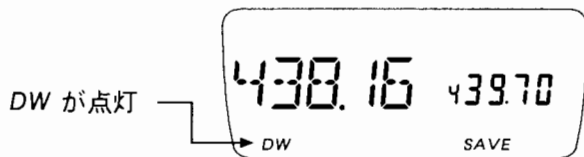
メモリーモード時のデュアルレシーブ

任意のメモリーチャンネルを受信しながらメモリーチャンネル“[H・I]”にメモリーした周波数をデュアルレシーブします。

アドバイス デュアルレシーブが動作中でも、下記の操作を行うことができます。

- ・送信操作（ただし送信中は、デュアルレシーブは動作しません）
- ・メモリーチャンネルを変える

1. メモリーチャンネル“[H・I]”にデュアルレシーブしたい周波数をメモリーします。
2. 任意のメモリーチャンネルを呼び出します。
3.   キーをワンタッチ（0.5秒以内）で押し、ディスプレイに **F** が点灯している間（約5秒間）に  キーをワンタッチ（0.5秒以内）で押し、デュアルレシーブが始まります。



4. スキャンと同じように、優先チャンネルに信号が入感するとデュアルレシーブが一時停止し、スキャンレジュームの条件（ 36ページ）を満たすと、再びデュアルレシーブが動作を始めます。



5. 優先チャンネルを受信しているときにPTTスイッチを押すと、デュアルレシーブは自動的に解除されて、メモリーチャンネル“[H・I]”（優先チャンネル）での送受信操作に切り換わります。

下記の方法でデュアルレシーブをやめることができます。

- ★  **VFO DW** キーをワンタッチ（0.5秒以内）で押し（VFOモードになります）
- ★  **MR SKIP** キーを押す（メモリーモードになります）
- ★  **RV HM** キーをワンタッチ（0.5秒以内）で押し（ホームチャンネルになります）

ホームチャンネル時のデュアルレシーブ

ホームチャンネルを受信しながら指定したメモリーチャンネルをデュアルレシーブします。

アドバイス デュアルレシーブが動作中でも、下記の操作を行うことができます。

・送信操作（ただし送信中は、デュアルレシーブは動作しません）

1. デュアルレシーブしたいメモリーチャンネル（優先チャンネル）を呼び出します。
2.  キーをワンタッチ（0.5秒以内）で押して、ホームチャンネルを呼び出します。
3.  キーをワンタッチ（0.5秒以内）で押し、ディスプレイに **F** が点灯している間（約5秒間）に  キーをワンタッチ（0.5秒以内）で押すと、デュアルレシーブが始まります。



4. スキャンと同じように、優先チャンネルに信号が入感するとデュアルレシーブが一時停止し、スキャンレジュームの条件（ 36ページ）を満たすと、再びデュアルレシーブが動作を始めます。



5. 優先チャンネルを受信しているときに送信すると、デュアルレシーブは自動的に解除されて、メモリーチャンネル（優先チャンネル）での送受信操作に切り換わります。

下記の方法でデュアルレシーブをやめることができます。

- ★  キーを押す（VFOモードになります）
- ★  キーを押す（メモリーモードになります）
- ★  キーをワンタッチ（0.5秒以内）で押す（ホームチャンネルになります）

VFOプライオリティ

VFO AおよびVFO Bを同時に受信状態にして、先に信号が入感したVFOの信号を優先的に受信します。

VFOプライオリティが動作中でも、下記の操作を行うことができます。

- ・ VFO Aの送信操作（ただし送信中は、VFOプライオリティは動作しません）
- ・ 周波数を変える

1. 受信したい周波数をVFO AおよびVFO Bにあわせます。

2.  キーをワンタッチ（0.5秒以内）で押した後、 キーを0.5秒以上押すと、VFOプライオリティが始まります。



3. スキャンと同じように、どちらかのVFOに信号が入感するとVFOプライオリティが一時停止し、スキャンレジュームの条件（ 36ページ）を満たすと、再びVFOプライオリティが動作を始めます。

信号が入感した方のVFOが点滅する



VFOプライオリティは、次に記すいずれかの方法によりやめることができます。

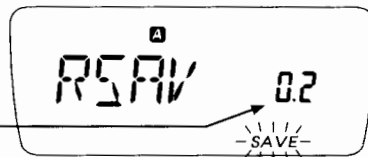
- ★  キーを押す（VFOモードになります）
- ★  キーをワンタッチ（5秒以内）で押す（メモリーモードに移行します）
- ★  キーをワンタッチ（5秒以内）で押す（ホームチャンネルになります）

バッテリーセーブ

受信時において信号が入感しない状態または、DIAL操作やキー操作を行わない状態が約2秒以上続くと、CPU以外への電源供給を断続的にを行い、電池の消耗を少なくすることができます。

1.  キーをワンタッチ(0.5秒以内)で押し、ディスプレイに **F** が点灯している間(約5秒間)に  キーを押すと、ディスプレイに現在あわせてあるバッテリーセーブレシオ(電源の供給/休止比率)を表示します。

現在のバッテリー
セーブレシオ



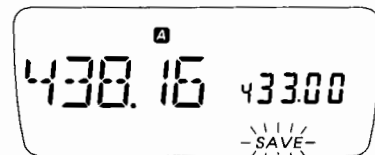
2. この状態でDIALツマミをまわすと、バッテリーセーブレシオが

- ◎ 0.2 (電源供給 200mS : 休止 200mS)
- ◎ 0.3 (電源供給 200mS : 休止 300mS)
- ◎ 0.5 (電源供給 200mS : 休止 500mS)
- ◎ 1.0 (電源供給 200mS : 休止 1000mS)
- ◎ 2.0 (電源供給 200mS : 休止 2000mS)
- ◎ OFF (常時電源を供給します)

と変化しますので、希望する値にあわせませう。

3. PTTスイッチを押すとディスプレイの表示が運用周波数表示に戻り、バッテリーセーブが始まります。

アドバイス バッテリーセーブ中は、ディスプレイに“SAVE”の表示が点滅します。



“SAVE” が点滅する

4. バッテリーセーブ中に信号が入感するとバッテリーセーブは一時停止し、信号が無くなると約2秒後に、再びバッテリーセーブを再開します。



◎バッテリーセーブが一時停止しているときには、ディスプレイの“SAVE”は点滅から点灯に変わります。

◎信号が入感していなくても、スケルチが開いてノイズが聞こえているときや送信中、スキャン中でも、バッテリーセーブは一時停止します。

◎パケット通信などのデータ通信を行うときには、バッテリーセーブを“OFF”にしてください。
バッテリーセーブ中では、パケット信号が入感してもバッテリーセーブが一時停止するまでに時間が掛

かり、いわゆる“頭切れ”の現象が生じるからです。
 ◎ARTS機能 (43 ページ) を動作させるときには、
 バッテリーセーブを“OFF”にしてください。

キーロックのしかた

誤って周波数が変化したりしないよう、キーボードの動作をロックする(キー操作を受け付けなくする)ことができます。

 キーをワンタッチ(0.5秒以内)で押し、ディスプレイに **F** が点灯している間(約5秒間)に  キーを押すとロックされます。



再び上記の操作を行うと、キーロックを解除することができます。

アドバイス DIAL ツマミ や PTT スイッチ も ロック
 することができます。 (91 ページ)

オートマチックパワーオフ (APO)

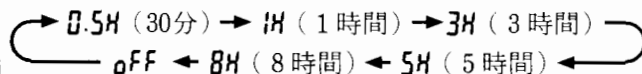
受信時において、あらかじめ決められた時間（パワーオフタイム）までに送信操作やDIAL操作・キーボード操作を行わなかったときには、CPU以外への電源供給を停止し、電池の消耗を少なくします。

（工場出荷時には、パワーオフタイムは“OFF”にあわせてあります。）

1.  キーをワンタッチ（0.5秒以内）で押し、ディスプレイに **F** が点灯している間（約 5 秒間）に  キーを押すと、ディスプレイに現在あわせてある状態を表示します。



2. この状態で**DIALツマミ**をまわすと、パワーオフタイムが



と切り換わりますので、希望する時間にあわせま

3. 最後にPTTスイッチを押します。

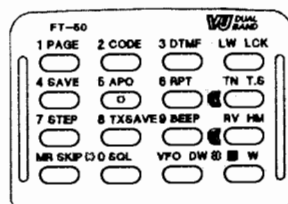


パワーオフタイムを30分、1時間、3時間、5時間、8時間のいずれかにあわせると、ディスプレイに“**□**”の表示が点灯します。

アドバイス ◎自動的に電源が“OFF”になる約1分前に、警告音が鳴ります。

◎オートマチックパワーオフで電源が“OFF”になった場合でも、再度**PWRスイッチ**を押せば、電源を入れることができます。

FTT-12実装時の 拡張機能

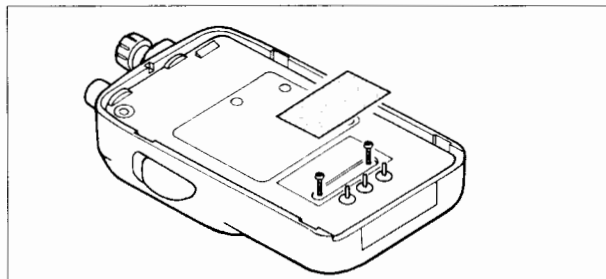


オプションキーパッド “FTT-12”

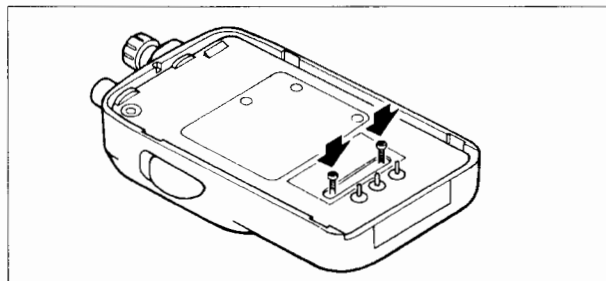
この項では、オプションのキーパッド FTT-12 を使用すると行える操作について説明します。

キーパッドの取り替えかた

1. 電池ケースまたはNi-Cd電池パックを外します。
(13 14ページ)
2. 下図に示すシールをはがして、付属のドライバーでビス(2本)を緩めます。



3. 緩めたビス(2本)を押すと(図参照)、キーパッドが本体から外れますので、その後ビス(2本)を完全に外してください。



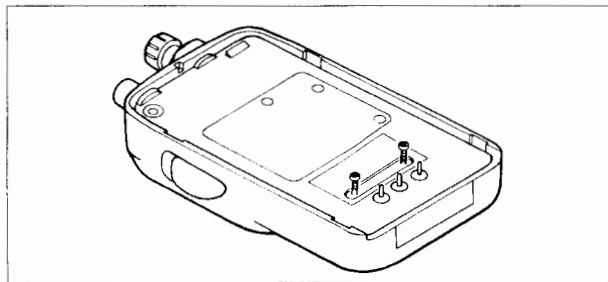
静電気などにより半導体が破損する恐れがありますので、必要箇所以外の場合は不用意に手を触れないでください。

4. 新しく取り付けるキーパッドをトランシーバー本体に取り付けます。

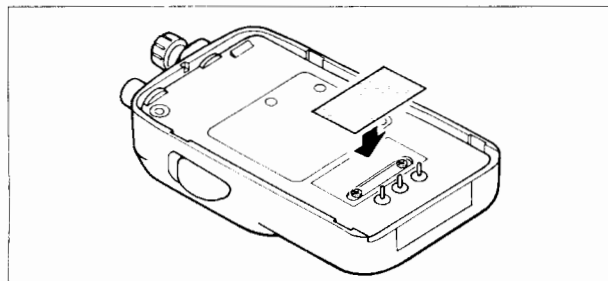


キーパッドを取り付ける際、防水用ゴムパッキンがねじれたり、はみ出したりしないように取り付けてください。ねじれやはみ出しがあると防水効果がなくなります。

5. 下図を参考にして、付属のビス2本を使用して、キーパッドをビス止めします。



6. 一度電池ケースを取り付け、電源を入れてトランシーバーが動作することを確認してください。
7. 動作することを確認したら、電源スイッチを切り、電池ケースを外して、下図に示す場所に付属のシールを貼って終了です。



キーパッドの交換を当社営業所/ サービスにご依頼になる場合には、別途料金を申し受けますのでご了承ください。

音声録音機能

受信した音声や、マイクからの音声を最大で約20秒間録音することができ、さらに、内蔵スピーカーで再生することはもちろんのこと、録音した音声を送信することができます。

また、信号を受信すると自動的に録音を開始する“自動録音機能”があります。

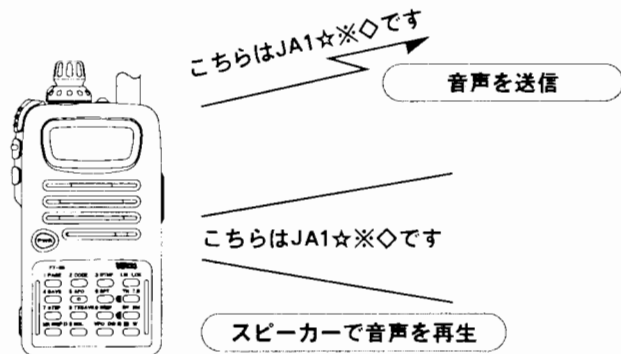


電源電圧が低下し、ディスプレイに“”が点滅しているときは、正しく録音できない場合があります。

録音のしかたには“マイクで録音”または“受信した音声を録音”の2つの方法があります



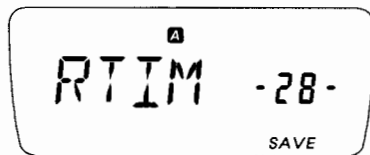
再生のしかたには“スピーカーで再生”または“音声を送信”の2つの方法があります



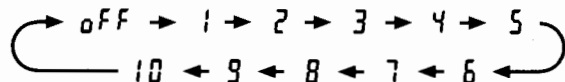
録音時間の変えかた

工場出荷時は、録音チャンネル“REC”に最大20秒間録音できるようにあわせてありますが、録音チャンネルを“REC 1”と“REC 2”の2チャンネルに分け、それぞれのチャンネルの録音時間を1秒～10秒まで自由にあわせることができます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けます。
2. DIALツマミをまわして、“RTIM -28-”にあわせませす。



3. 再びDIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわすと、

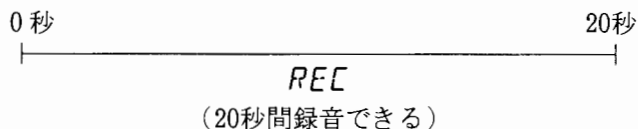


とREC 2に録音できる時間(秒)を変えることができますので、希望の録音時間にあわせませす。

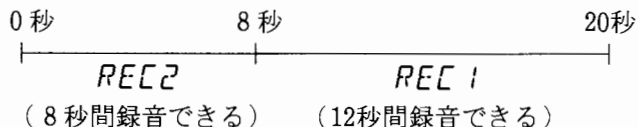
5. 最後にPTTスイッチを押して終了です。



REC 1とREC 2の録音時間は、合計で20秒までです。



例えば、REC 2を8秒にあわせた場合は、REC 1に録音できる時間は自動的に12秒になります。

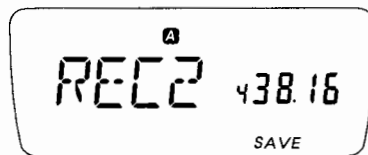
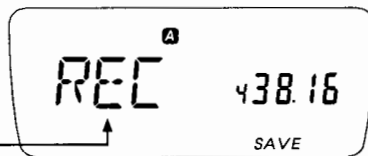


録音のしかた（マイクからの音声を録音する場合）

1.  キーを0.5秒以上押し続けます。
2. DIALツマミをまわして、“REC”（REC 1）または“REC2”にあわせます。

または

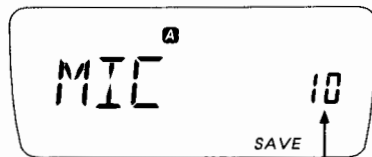
“REC 1”の表示



“REC2”に録音するには“録音チャンネル REC2時間のあわせかた”（ 103ページ）を行う必要があります。

3. PTTスイッチを押し続けている間録音しますので、マイクに向かって話をしてください。

アドバイス ◎録音中は、ディスプレイに“MIC”および録音できる残り時間が表示されます。



録音できる残り時間（秒）

- ◎録音中にPTTスイッチを離すと、途中で録音をやめることができます。
- ◎録音した内容を消してしまわないように、一時的に録音機能を“OFF”にすることができます。

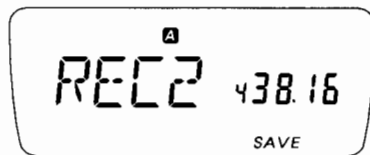
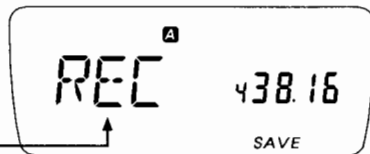
（ 104ページ）

録音のしかた（受信した音声を録音する場合）

1.  キーを0.5秒以上押し続けます。
2. DIALツマミをまわして、“REC”（REC 1）または“REC2”にあわせます。

または

“REC 1”の表示

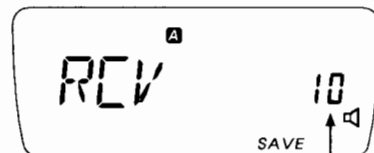


“REC2”に録音するには“録音チャンネル
REC2時間のあわせかた”（103ページ）
を行う必要があります。

3. MONIスイッチを押し続けている間録音を行います。

アドバイス

◎録音中は、ディスプレイに“RCV”および録音できる残り時間が表示されます。



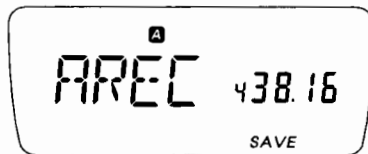
録音できる残り時間（秒）

- ◎録音中にMONIスイッチを離すと、途中で録音をやめることができます。
- ◎録音した内容を消してしまわないように、一時的に録音機能を“OFF”にすることができます。

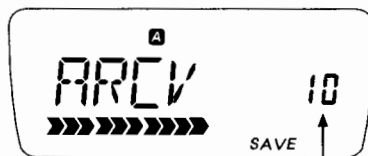
（104ページ）

録音のしかた（信号を受信したとき自動的に録音する場合）

1.  キーを押した後に、続けて  キーを0.5秒以上押します。
2. ディスプレイに“**AREC**”が表示され、信号を受信すると自動的に録音を開始します。



アドバイス ◎録音中はディスプレイに“**ARCV**”および録音できる残り時間が表示されます。



録音できる残り時間（秒）

◎録音中に受信信号が無くなると、決められた録音時間に達しなくても、録音をやめます。

3.  キーを押すと自動録音機能は解除されます。



自動録音機能を解除しない限り、信号を受信するたびに、再び録音を開始します。

（前回録音された内容は消えてしまいます）

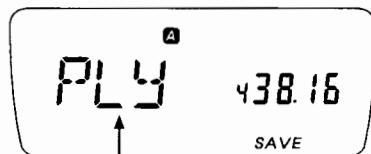
アドバイス 録音した内容を消してしまわないように、一時的に録音機能を“**OFF**”にすることができません。
( 104ページ)

再生のしかた（スピーカーで再生する場合）

REC (REC 1) に録音された音声を
再生する場合

 キーを0.5秒以上押し続けると、再生をはじめます。

アドバイス ◎再生中は、ディスプレイに“PLY”
または“PLY I”が表示されます。



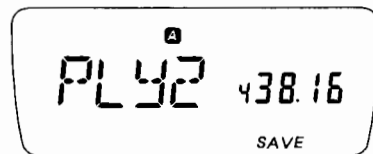
または“PLY I”の表示

◎再生の途中で  キーを押すと、再生をやめることができます。

REC 2 に録音された音声を再生する場合

 キーを押した後に、続けて  キーを0.5秒以上押し続けると再生をはじめます。

アドバイス ◎再生中はディスプレイに“PLY2”
が表示されます。



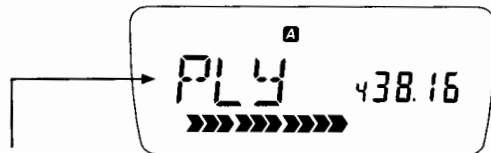
◎再生の途中で  キーを押すと、再生をやめることができます。

再生のしかた（送信しながら再生する場合）

REC (REC 1) に録音された音声を再生する場合

1. PTTスイッチを押して、送信状態にします。
2. PTTスイッチを押しながらDIALツマミをワンタッチで押すと、再生をはじめます。

アドバイス ◎再生中は、ディスプレイに“PLY”または“PLY1”が表示されます。



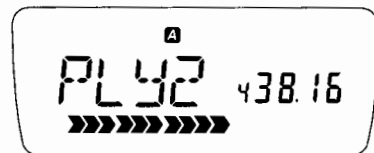
または“PLY1”の表示

- ◎再生中はPTTスイッチを離しても、送信状態は維持されます。
- ◎再生の途中でDIALツマミを押すと、再生をやめることができます。

REC 2 に録音された音声を再生する場合

1. PTTスイッチを押して、送信状態にします。
2. PTTスイッチを押しながらDIALツマミを0.5秒以上押すと、再生をはじめます。

アドバイス ◎再生中はディスプレイに“PLY2”が表示されます。



- ◎再生中はPTTスイッチを離しても、送信状態は維持されます。
- ◎再生の途中でDIALツマミを押すと、再生をやめることができます。

ページャー運用

ある特定の局やグループだけを対象に“待ち受け/呼び出し”を行うことができます。

あらかじめ各自でページャーコードを決めておき、ページャー運用を行うと、ページャーコードが一致した相手局（またはグループ）を呼び出すことができます。

また、トーンスケルチ運用やDCS運用と異なり、受信局のディスプレイに送信局のコードが表示されますので、誰が呼び出しを行ったかを確実に知ることができます。

ページャーコードについて

ページャー運用を行うときには、始めにコードメモリーチャンネルにページャーコードを登録します。

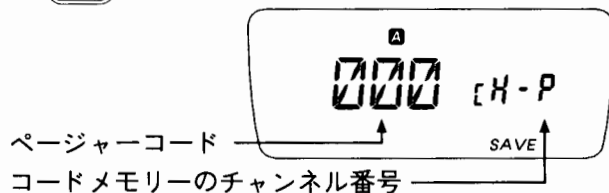
コードメモリーチャンネルは【, P, 1～6】の8チャンネルありますが、チャンネル“P”には必ず自分のコードを登録してください。

また、チャンネル“【”は、相手のコードを一時的に登録するチャンネルですので、呼び出されたときにチャンネル“【”で呼び返すと、すぐに相手呼び出すことができます。

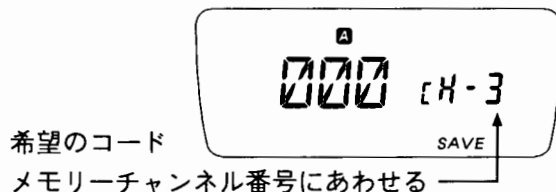
コードメモリー チャンネル	
【	呼び出されたときに、相手局のコードを一時的に登録するチャンネル
P	自分のコードを登録
1～6	相手のコードやグループ共通のコードを登録します

ページャーコードのあわせかた

1.   キーをワンタッチ(0.5秒以内)で押し、ディスプレイに **F** が点灯している間(約5秒間)に  キーを押します。



2. DIALツマミをまわすと、コードメモリーのチャンネル番号が変わりますので、希望のコードメモリーチャンネル番号にあわせませう。



コードメモリー “[H-” には、ページャーコードをあわせることはできません。

3. 数字キーで希望するページャーコード(3桁)を入力します。

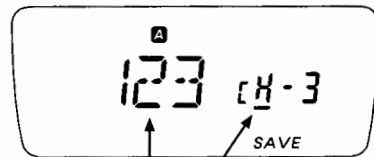
希望のページャーコードを入力する

ページャーコードの入力と同時に

“—” が表示します。

(詳細は76ページ「着呼禁止」参照)

4. ページャーコードをあわせ終わりましたら、PTTスイッチを押して終了です。



ページャー呼び出し

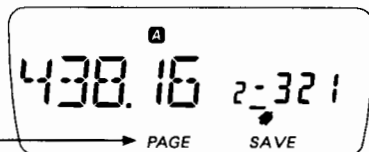
特定の局やグループを呼び出します。

1.  キーをワンタッチ (0.5秒以内) で押します。
2. ディスプレイに **F** が点灯している間 (約 5 秒間)
 キーを押すたびにディスプレイの表示が

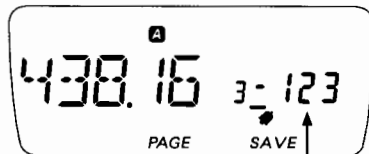
→ PAGE → T.PAGE → CODE → 表示なし

と変わりますので、PAGE を表示させます。

PAGE を表示



3.  キーをワンタッチ (0.5秒以内) で押し、ディスプレイに **F** が点灯している間 (約 5 秒間) に
 キーを押すとコードメモリーチャンネルを選ぶことができますので、DIALツマミをまわして、呼び出したい相手のコード (またはグループのコード) がメモリーしてあるチャンネルにあわせませす。



コードメモリーチャンネルをあわせる

4. PTTスイッチを押します。

アドバイス

コードメモリーは次に示す方法でも選ぶことができます。

- ①  キーを押します。
- ② DIALツマミを押すたびにコードメモリーが変わりますので、希望のコードメモリーにあわせます。
- ③ PTTスイッチを押して終了です。

5. この状態で送信すると、相手局のコード (またはグループのコード) と自局のコード (コードメモリー P に登録したコード) を送出して、呼び出すことができます。

アドバイス

呼び出された後に交信を始めても、送信のたびにページャーコードが送出されますので、交信が始まったらページャーを“OFF”にすると、スムーズな交信を行うことができます。

トリガーページャー呼び出し（トリガーページャー搭載機同士のみ有効）

特定の局やグループを呼び出します。

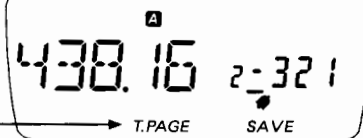
なお、呼び出された後に交信を始めると、ページャーコードを送出しくなくなりますのでスムーズな交信を行うことができます。

1.  キーをワンタッチ（0.5秒以内）で押します。
2. ディスプレイに **F** が点灯している間（約 5 秒間）
 キーを押すたびにディスプレイの表示が

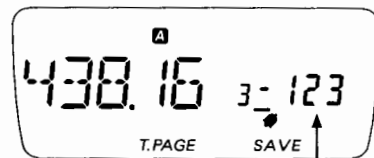
→ PAGE → T.PAGE → CODE → 表示なし

と変わりますので、T.PAGE を表示させます。

T.PAGE を表示



3.  キーをワンタッチ（0.5秒以内）で押し、ディスプレイに **F** が点灯している間（約 5 秒間）に
 キーを押すとコードメモリーチャンネルを選ぶことができますので、DIALツマミをまわして、呼び出したい相手のコード（またはグループのコード）がメモリーしてあるチャンネルにあわせませす。



コードメモリーチャンネルをあわせる

4. PTTスイッチを押します。

アドバイス コードメモリーは次に示す方法でも選ぶことができます。

- ①  キーを押します。
 - ② DIALツマミを押すたびにコードメモリーが変わりますので、希望のコードメモリーにあわせませす。
 - ③ PTTスイッチを押して終了です。
5. この状態で送信すると、相手局のコード（またはグループのコード）と自局のコード（コードメモリーPに登録したコード）を送出して、呼び出すことができます。



受信状態が3秒以上続くと、再び交信が始まるまでページャーコードを送出するようになります。

コードスケルチ呼び出し

特定の局やグループを呼び出します。

なお、ページャーやトリガーページャーとは異なり、相手局のディスプレイに自局のコードを表示させることはできません。

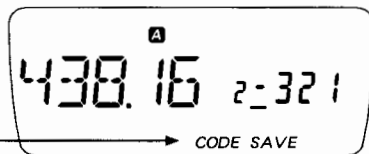
1.  キーをワンタッチ (0.5秒以内) で押します。
2. ディスプレイに **F** が点灯している間 (約 5 秒間)

1 PAGE

 キーを押すたびにディスプレイの表示が

→ PAGE → T.PAGE → CODE → 表示なし

と変わりますので、CODE を表示させます。



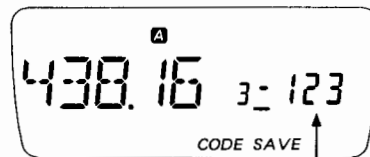
CODE を表示

CODE SAVE

3.  キーをワンタッチ (0.5秒以内) で押し、ディスプレイに **F** が点灯している間 (約 5 秒間) に

2 CODE

 キーを押すとコードメモリーチャンネルを選ぶことができますので、DIALツマミをまわして、相手局と同じコードがメモリーしてあるチャンネルにあわせませす。



コードメモリーチャンネルをあわせる

4. PTTスイッチを押します。

アドバイス コードメモリーは次に示す方法でも選ぶことができます。

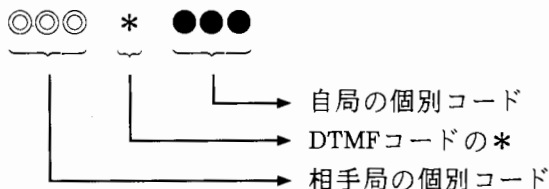
- ①  キーを押します。
 - ② **DIALツマミ**を押すたびにコードメモリーが変わりますので、希望のコードメモリーにあわせませす。
 - ③ **PTTスイッチ**を押して終了です。
5. この状態で送信すると、選んだコードを送出して、呼び出すことができます。

マニュアル操作による呼び出ししかた

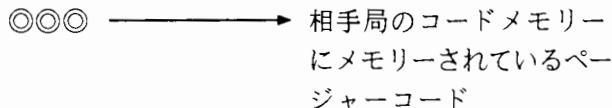
呼び出したい局（またはグループ）のページャーコードがコードメモリーにセットされていないときには、キーボードより直接ページャーコードを送出する、マニュアル操作で呼び出しを行います。

ページャー運用時に、本機が送信の初めに自動送出するページャーコードは、

● ページャーまたはトリガーページャー時には



● コードスケルチ時には

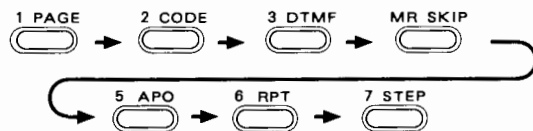


の順で送出しますので、キーボードより上記の順番でページャーコードを送出すれば、相手局を呼び出すことができます。



自局の個別コードが“567”で、個別コード“123”の相手局を呼び出す場合

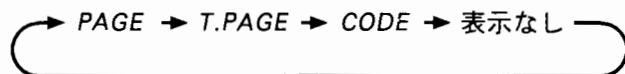
PTTスイッチを押しながらキーボードで、



とキーを押します。

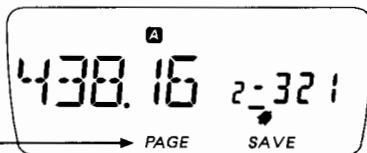
ページャー待ち受け

1.  キーをワンタッチ (0.5秒以内) で押します。
2. ディスプレイに **F** が点灯している間 (約 5 秒間)
 キーを押すたびにディスプレイの表示が



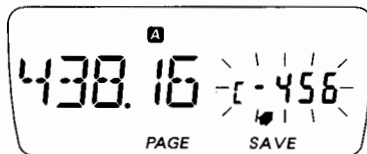
と変わりますので、PAGE を表示させます。

PAGE を表示

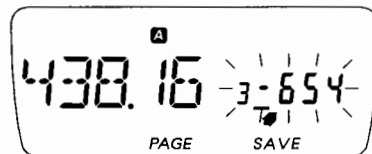


メモリーしてあるページャーコードと同じコードを含む信号を受信したときにのみ“PAGE”表示が点滅に変わり、“”が消灯して呼び出し音が鳴り、ディスプレイに次のいずれかを表示し、“どの局から呼び出しを受けたのか?”を知ることができます。

- 個別呼び出しで呼び出しを受けたときには、呼び出してきた局の個別コードを表示



- グループ呼び出しで呼び出しを受けたときには、そのときに使用したグループコードを表示

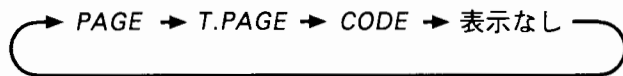


なお、呼び出されたときに送信操作を行なうと、相手局の個別コードと自局の個別コードを送信の初めに自動送出し、応答することができます。

アドバイス 呼び出された後に交信を始めても、送信のたびにページャーコードが送出されますので、交信が始まったらページャーを“OFF”にすると、スムーズな交信を行うことができます。

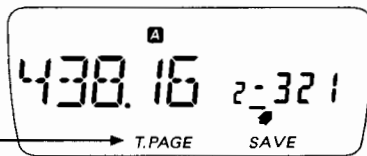
トリガーページャー待ち受け（トリガーページャー搭載機同士のみ有効）

1.  キーをワンタッチ（0.5秒以内）で押します。
2. ディスプレイに **F** が点灯している間（約 5 秒間）
 キーを押すたびにディスプレイの表示が



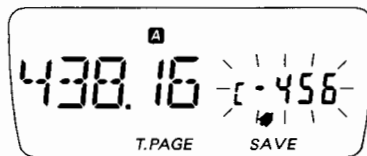
と変わりますので、T.PAGE を表示させます。

T.PAGE を表示

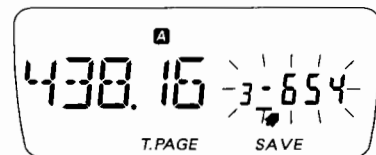


メモリーしてあるページャーコードと同じコードを含む信号を受信したときにのみ“T.PAGE”表示が点滅に変わり、“●”が消灯して呼び出し音が鳴り、ディスプレイに次のいずれかを表示し、“どの局から呼び出しを受けたのか？”を知ることができます。

- 個別呼び出しで呼び出しを受けたときには、呼び出してきた局の個別コードを表示



- グループ呼び出しで呼び出しを受けたときには、そのときに使用したグループコードを表示



なお、呼び出されたときに送信操作を行なうと、相手局の個別コードと自局の個別コードを送信の初めに自動送出し、応答することができます。

アドバイス

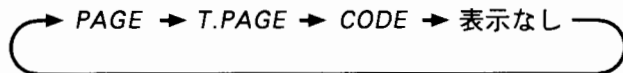
呼び出された後に交信を始めると、ページャーコードを送出しなくなりますのでスムーズな交信を行うことができます。



受信状態が 3 秒以上続くと、再び交信が始まるまでページャーコードを送出するようになります。

コードスケルチ待ち受け

1.  W キーをワンタッチ (0.5秒以内) で押します.
2. ディスプレイに  が点灯している間 (約 5 秒間)
 キーを押すたびにディスプレイの表示が



と変わりますので、**CODE** を表示させます.



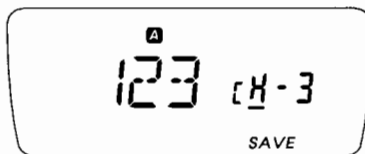
メモリーしてあるページャーコードと同じコードを含む信号を受信したときにのみ“CODE”表示が点滅に変わり、交信することができます.

着呼禁止

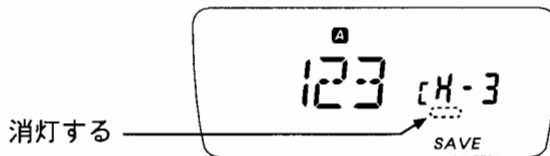
ページャーおよびトリガーページャー動作で特定局からの呼び出しを待っているときに、メモリーしてあるコードと一致すれば、目的局以外からの呼び出しを受けることになります。

そこで、このようなことが起こらないよう、コードメモリーには着呼を禁止（呼び出し拒否）させることができます。

1.  キーをワンタッチ（0.5秒以内）で押し、ディスプレイに **F** が点灯している間（約 5 秒間）に  キーを押します。
2. **DIALツマミ**をまわして、着呼を禁止したいページャーコードがセットしてあるコードメモリーにあわせます。

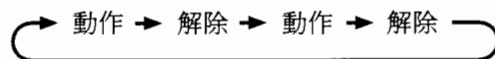


3. この状態で  キーを押すと、“—”表示が消灯して、着呼禁止が動作します。



アドバイス

 キーを押すたびに、“—”の表示が消灯、点灯を繰り返し、着呼禁止が



を繰り返します。

4. **PTTスイッチ**を押して終了です。

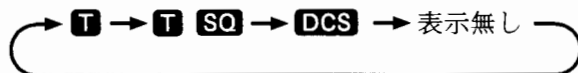


コードスケルチ動作時には、着呼禁止の動作・解除にかかわらず、ページャーコードが一致すれば相手局の信号を受信することができます。

トーンスケルチ

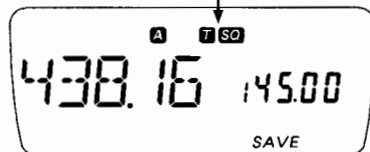
特定局を対象に“待ち受け/呼び出し操作”が行える運用方法のことです。

1.  キーをワンタッチ（0.5秒以内）で押すたびに

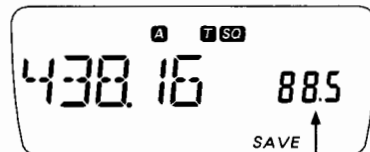


と変わりますので“**T SQ**”を表示させます。

“**T SQ**”を表示させる



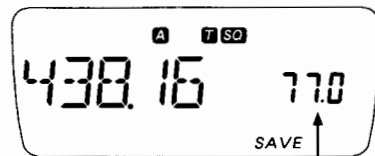
2.  キーをワンタッチ（0.5秒以内）で押し、ディスプレイに **F** が点灯している間（約5秒間）に  キーをワンタッチ（0.5秒以内）で押します。



あわせてあるトーン周波数を表示

3. **DIALツマミ**をまわして、希望するトーン周波数にあわせます。

（工場出荷時は88.5Hzにあわせてあります）



トーン周波数をあわせる



相手局とトーン周波数が同じでないと、呼び出しを行うことはできません。

4. 再度  キーをワンタッチ（0.5秒以内）で押します。
5. この状態でトーンスケルチ運用を行うことができます。

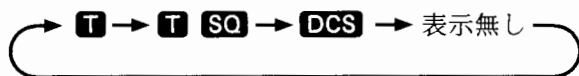
アドバイス トーン周波数の異なる信号やトーン信号を含まない信号は、受信することができませんが、**BUSY/TX**インジケーターが緑色に点灯し、信号が入感していることを知らせます。

また、このときに**MONIスイッチ**を押せば、その信号を押している間だけ受信することができます。

トーンサーチ

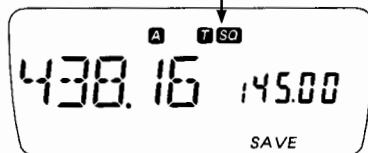
相手局のトーン周波数が不明な場合、トーン周波数を捜すことができます。

1.  キーをワンタッチ (0.5秒以内) で押すたびに

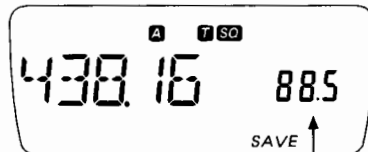


と変わりますので “**T SQ**” を表示させます。

“**T SQ**” を表示させる

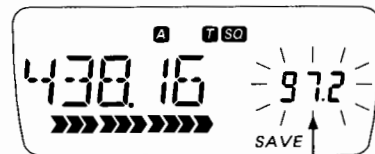


2.  キーをワンタッチ (0.5秒以内) で押し、ディスプレイに **F** が点灯している間 (約 5 秒間) に  キーをワンタッチ (0.5秒以内) で押します。



あわせてあるトーン周波数を表示

4.  キーを0.5秒以上押し続けると、トーンサーチが始まります。
5. 相手局のトーン周波数と一致すると、トーンサーチは一時的に停止し、トーン周波数がディスプレイに点滅します。

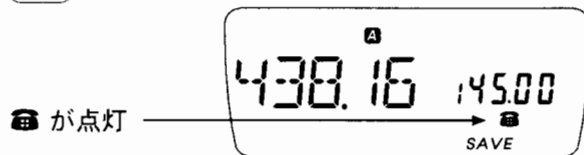


トーン周波数が点滅する

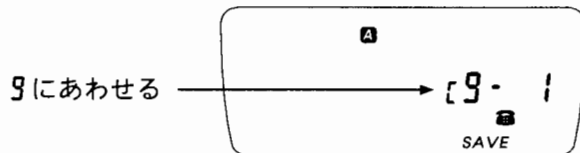
6. トーン周波数が点滅している間 (約 5 秒間) に PTT スイッチを押すと、トーンサーチは解除され、相手局と交信することができます。

受信したDTMFコードを表示する

1.  ^W キーをワンタッチ (0.5秒以内) で押し、ディスプレイに **F** が点灯している間 (約 5 秒間) に  ^{3 DTMF} キーを押します。



2.  ^W キーを0.5秒以上押し続け、ディスプレイにメモリーチャンネル番号が点滅したら、 ^{9 BEEP} キーを押します。



3. この状態でDTMFコードを受信すると、ディスプレイに受信したDTMFコードを表示します。

アドバイス ◎DTMFコードは最大32文字表示させることができます。

◎DIALツマミをまわすことにより、ディスプレイに表示された桁以降のコードを確認することができます。

◎PTTスイッチを押すと、通常のDTMFモードに戻ります。

メ
モ

セットモード

セットモードとは、

一度あわせてしまえばその後変える機会の少ない機能や動作の選択・設定操作を行う状態のことをいい、アドレスナンバー“1”から“29”までの29種類（FTT-11の場合は“1”から“26”までの26種類）の機能選択や機能設定を行うことができます。

（アドレスナンバーは、ディスプレイのメモリーチャンネル表示部に表示されます。）

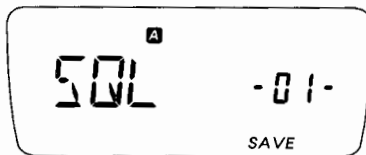
スケルチ回路のあわせかた	82	ベル機能のON/OFF	92
送信出力の変えかた	82	BUSY/TXランプのON/OFF	93
メモリーに名前を付ける	83	LAMPスイッチ動作の変えかた	93
サブ表示のON/OFF	84	HOME/REVの選びかた	94
ARSのON/OFF	84	TOT時間の変えかた	95
シフト方向のあわせかた	85	ビジーチャンネルロックアウトのON/OFF	96
シフト幅のあわせかた	86	ARTS時間の変えかた	97
VFOデュプレックスのON/OFF	86	ARTS動作時のピープ音ON/OFF	97
レピーターシフトリンク機能のON/OFF	87	CWIDのあわせかた	98
ステップ幅の変えかた	87	ページャーコードの送出スピードの変えかた	99
スキャンレジュームの選びかた	88	ページャーディレイタイムの変えかた	100
スキャンストップランプのON/OFF	88	ページャー呼び出し音の回数の変えかた	101
ピープ音のON/OFF	89	ページャーアンサーバックの選びかた	102
バッテリーセーブの変えかた	89	アンサーメッセージのON/OFF	103
TX SAVEのON/OFF	90	録音チャンネルREC2時間の変えかた	103
オートマチックパワーオフタイムの変えかた	90	音声録音機能の上書禁止	104
ロックスイッチ動作の変えかた	91		

スケルチ回路のあわせかた

● セットモード時のアドレスナンバー “01”

工場出荷時はスケルチレベルは“0”にあわせていますが、スケルチレベルを変えることができます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けます。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を“SQL-01-”にあわせます。



3. DIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわすと、スケルチレベルが下記のように変わりますので、希望のレベルにあわせます。

SQL 0 ↔ SQL 1 … SQL 14 ↔ SQL 15

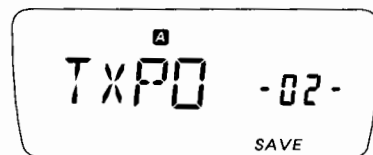
5. 最後にPTTスイッチを押して終了です。

送信出力の変えかた

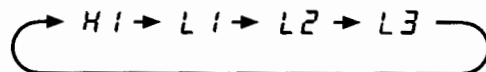
● セットモード時のアドレスナンバー “02”

本機は、送信出力をHI, L3, L2, L1の4段階に切り換えることができます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けます。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を“TXPO-02-”にあわせます。



3. DIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわすと、送信出力が下記のように変わりますので、希望の出力にあわせます。

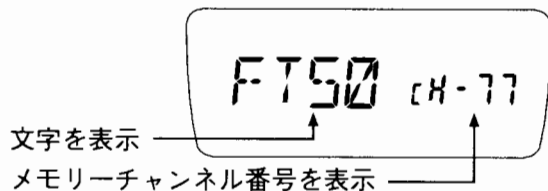
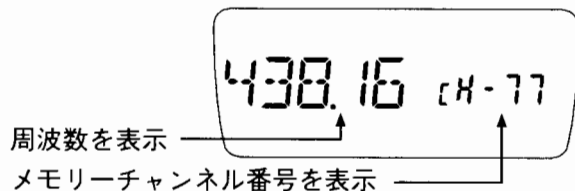


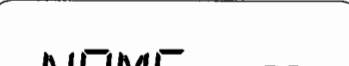
5. 最後にPTTスイッチを押して終了です。

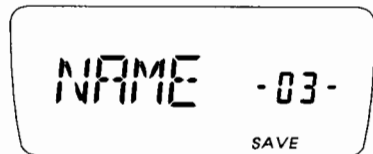
メモリーに名前をつける

● セットモード時のアドレスナンバー “03”

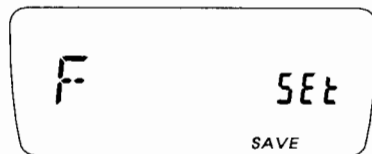
メモリーモードやホームチャンネルで運用の際、ディスプレイの表示をチャンネル番号ではなく、4文字のアルファベットや数字などで表示することができます。



1. 名前を付けたいメモリーを呼び出します。
 2. **DIALツマミ**を0.5秒以上押し続けます。
 3. **DIALツマミ**をまわして、ディスプレイの表示を
“NAME-03-”
にあわせます。
- 
- NAME -03-
- SAVE
4. **DIALツマミ**を押します。



5. **DIALツマミ**をまわしてディスプレイの表示を“on”にします。
6. **DIALツマミ**を押すと、1桁目の文字を選ぶことができますので、**DIALツマミ**をまわして、希望の文字を表示させます。



表示できる文字

スペース	{	}	÷	=	≠	/	△	▽	□	◇	○	×
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	
C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	
O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	

7. 再びDIALツマミを押すと、次の桁の文字を選ぶことができるようになりますので、DIALツマミをまわして、希望の文字を表示させます。



8. 7. の操作を繰り返し、最後の桁まで文字を表示させます。
9. 最後に **PTTスイッチ** を押して終了です。

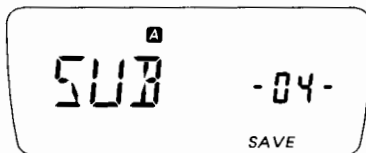
サブ表示のON/OFF

● セットモード時のアドレスナンバー “04”

ディスプレイの右側には、メモリーチャンネル番号などの各種情報が表示されますが、この表示をON/OFFさせることができます。(メモリーモード時を除く)

レピーターシフトリンク機能(101ページ)を“ON”にしている場合は、電源電圧を表示させることはできません。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けます。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を“SUB-04-”にあわせます。



3. DIALツマミを押して、DIALツマミをまわすと、

SUB on ↔ SUB dc ↔ SUB off
(表示する) (電源電圧表示) (表示しない)

と繰り返しますので、希望の状態にあわせます。

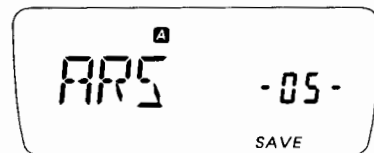
4. 最後にPTTスイッチを押して終了です。

ARSのON/OFF

● セットモード時のアドレスナンバー “05”

受信周波数をレピーター局の出力(送信)周波数にあわせるだけですぐにレピーター運用を行うことができますが、この機能をON/OFFさせることができます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けます。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を“ARS-05-”にあわせます。



3. DIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわすと、

ARS on ↔ ARS off
(動作する) (動作しない)

と繰り返しますので、希望の状態にあわせます。

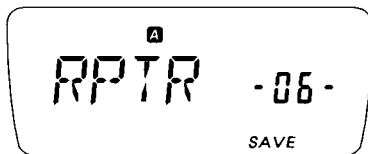
5. 最後にPTTスイッチを押して終了です。

シフト方向のあわせかた

● セットモード時のアドレスナンバー “06”

受信周波数に対して送信周波数を、あらかじめ決めておいた周波数（シフト幅）だけ希望する方向にシフト（ずらす）させることができます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けます。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を“RPT R -06-”にあわせませす。

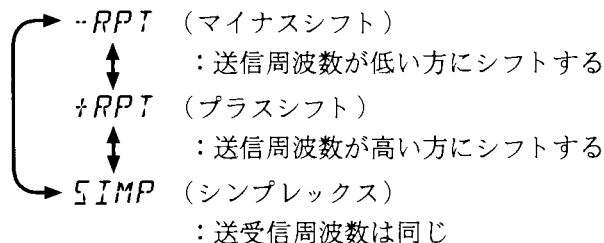


3. 再びDIALツマミを押します。



セミデュプレックスがメモリーされたチャンネルで操作を行うと“JUP”が表示されます。

4. DIALツマミをまわすと、



と繰り返しますので、希望の状態にあわせませす。

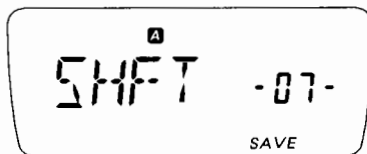
5. 最後にPTTスイッチを押して終了です。

シフト幅のあわせかた

● セットモード時のアドレスナンバー “07”

受信周波数に対して送信周波数をシフト（ずらす）させる際のシフト幅を変えます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けます。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を“SHIFT-07-”にあわせます。



3. DIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわすと、50kHz単位でシフト幅を0kHz～900MHzまで選ぶことができますので、希望のシフト幅にあわせます。

アドバイス



キーを押した後にDIALツマミをまわすと、1MHz単位でシフト幅を変えることができます。

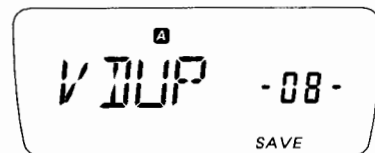
5. 最後にPTTスイッチを押して終了です。

VFOデュプレックスのON/OFF

● セットモード時のアドレスナンバー “08”

VFO A（またはVFO B）の周波数で送信し、受信はVFO B（またはVFO A）の周波数で行います。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けます。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を“V DUP-08-”にあわせます。



3. DIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわすと、

V DUP on ↔ V DUP off
(動作する) (動作しない)

と繰り返しますので、希望の状態にあわせます。

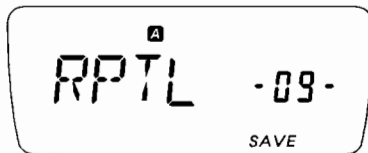
5. 最後にPTTスイッチを押して終了です。

レピーターシフトリンク機能のON/OFF

● セットモード時のアドレスナンバー “09”

レピーター運用時、送信中は受信周波数を、受信中は送信周波数をサブ表示部に表示させることができます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けます。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を“RPTL -09-”にあわせます。



3. DIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわすと、

RPTL ON ↔ RPTL OFF
(表示する) (表示しない)

と繰り返しますので、希望の状態にあわせます。

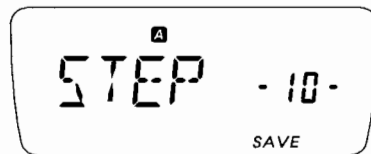
5. 最後にPTTスイッチを押して終了です。

ステップ幅の変えかた

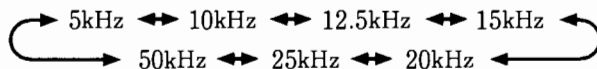
● セットモード時のアドレスナンバー “10”

周波数を変えるときステップ（間隔）を変えることができます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けるとセットモードの状態になります。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を“STEP -10-”にあわせます。



3. DIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわすと、周波数ステップが、



と変化しますので、希望のシフト幅にあわせます。

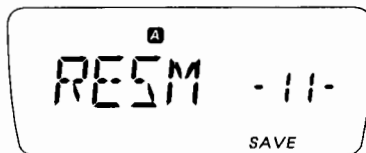
5. 最後にPTTスイッチを押して終了です。

スキャンレジュームの選びかた

● セットモード時のアドレスナンバー “11”

スキャンが一時停止した際の、スキャン再開の条件を変えることができます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けます。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を“RESM-11-”にあわせます。



3. DIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわすと、
RESM [Err (信号を受信している間は、一時停止を続けます)
↑
RESM 5 (一時停止し、5秒後にスキャンを再開します)

と繰り返しますので、希望の状態にあわせます。

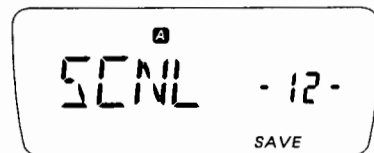
5. 最後にPTTスイッチを押して終了です。

スキャンストップランプのON/OFF

● セットモード時のアドレスナンバー “12”

スキャン操作を行ったとき、信号を受信してスキャン動作が停止するときに、照明ランプを点灯させることができます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けます。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を“SCNL-12-”にあわせます。



3. DIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわすと、

SCNL on ↔ SCNL off
(点灯する) (点灯しない)

と繰り返しますので、希望の状態にあわせます。

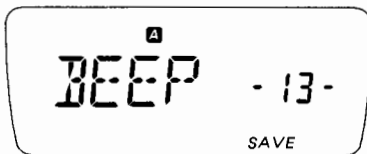
5. 最後にPTTスイッチを押して終了です。

ビープ音のON/OFF

● セットモード時のアドレスナンバー “13”

各種警告音やキー操作時に発するビープ音をON/OFFすることができます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けます。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を“BEEP - 13-”にあわせます。



3. 再びDIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわすと、

BEEP on (ビープ音が鳴る)



BEEP off (ビープ音は鳴らない)

と繰り返しますので、希望の状態にあわせます。

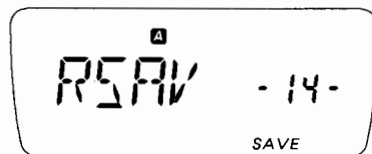
5. 最後にPTTスイッチを押して終了です。

バッテリーセーブの変えかた

● セットモード時のアドレスナンバー “14”

信号の入感がないときに、電池の消耗を少なくすることができます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けます。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を“RSRV - 14-”にあわせます。



3. 再びDIALツマミを押してDIALツマミをまわすと、



と変化しますので、希望の状態にあわせます。

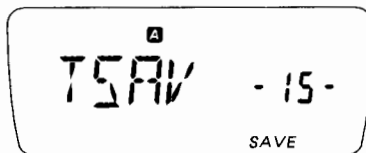
5. 最後にPTTスイッチを押して終了です。

TX SAVEのON/OFF

● セットモード時のアドレスナンバー “15”

相手の信号がフルスケールで入感しているとき、自動的に送信出力を下げ、電池の消耗を少なくすることができます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けます。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を“TSRV - 15-”にあわせます。



3. 再びDIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわすと、

TSRV on ↔ TSRV off

と繰り返しますので、希望の状態にあわせます。

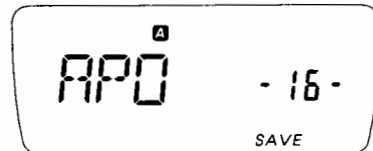
5. 最後にPTTスイッチを押して終了です。

オートマチックパワーオフタイムの変えかた

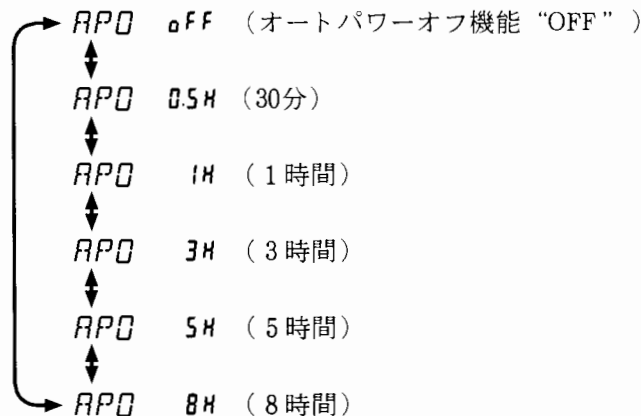
● セットモード時のアドレスナンバー “16”

あらかじめ決めておいた時間まで何も操作を行わないと、自動的に電源が“OFF”になります。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けます。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を“APD - 16-”にあわせます。



3. 再びDIALツマミを押してDIALツマミをまわすと、



と繰り返しますので、希望の時間にあわせます。

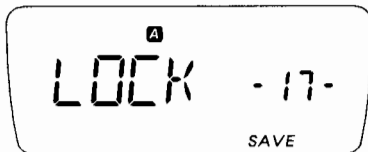
4. 最後にPTTスイッチを押して終了です。

ロックスイッチ動作の覚えかた

● セットモード時のアドレスナンバー “17”

 キーと  キーを続けて順に押すとキーボードの動作をロックすることができますが、PTTスイッチや、DIALツマミなどもロックすることができます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けます。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を“LOCK - 17-”にあわせます。



3. 再びDIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわすと、

LOCK 

(キーボードの動作をロック)



LOCK 

(DIALの動作をロック)



LOCK  

(キーボードとDIALの動作をロック)



LOCK 

(PTTスイッチの動作をロック)



LOCK  

(キーボードとPTTスイッチの動作をロック)



LOCK  

(DIALとPTTスイッチの動作をロック)



LOCK   

(キーボード/DIAL/PTTスイッチの動作をロック)

と変化しますので、希望の状態にあわせます。

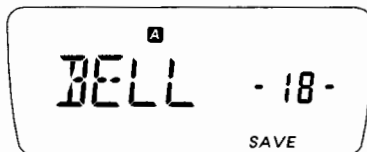
5. 最後にPTTスイッチを押して終了です。

ベル機能のON/OFF

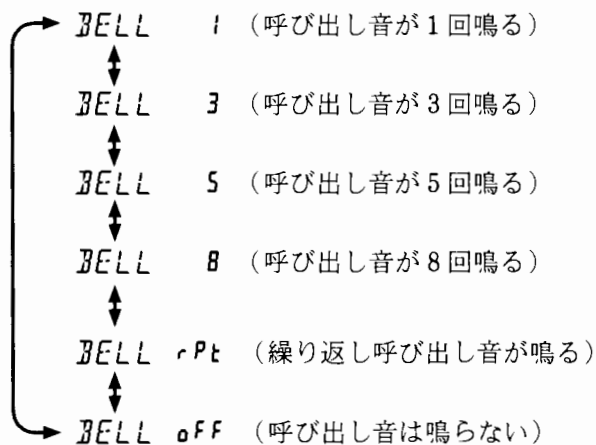
● セットモード時のアドレスナンバー “18”

トーンスケルチやDCS時に、特定の相手から呼び出されたとき、音と同時にディスプレイの“●”表示を点滅させるベル機能をON/OFFすることができます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けます。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を“BELL - 18-”にあわせます。



3. DIALツマミを押して、DIALツマミをまわすと、



と繰り返しますので、希望の状態にあわせます。

4. 最後にPTTスイッチを押して終了です。

BUSY/TXランプのON/OFF

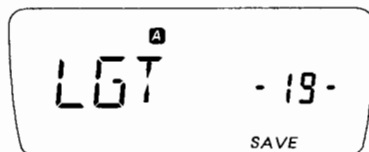
● セットモード時のアドレスナンバー “19”

送信時や信号を受信したときに点灯するBUSY/TXランプを点灯しないようにすることができます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けるとセットモードの状態になります。

2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を“LGT - 19 -”

にあわせます。



3. DIALツマミを押して、DIALツマミをまわすと、

LGT on (送信時は赤、信号受信時は緑に点灯します)



LGT off (送信時、信号受信時共に点灯しません)

と繰り返しますので、希望の状態にあわせます。

4. 最後にPTTスイッチを押して終了です。

LAMPスイッチ動作の換えかた

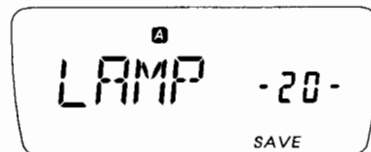
● セットモード時のアドレスナンバー “20”

LAMPキーを押したときのランプの点灯のしかたを変えることができます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押しします。

2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を“LAMP - 20 -”

にあわせます。



3. DIALツマミを押します。

4. DIALツマミをまわすと、

5 SEC LP : LAMPキーを押した後、5秒後に自動的に消灯します

KEY LP : PTTとMONI以外のキーを押したときに点灯し、5秒後に自動的に消灯します

TGL LP : LAMPキーを押すと、再びLAMPキーを押すまで点灯し続けます

と繰り返しますので、希望の状態にあわせます。

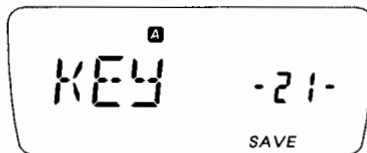
5. 最後にPTTスイッチを押して終了です。

HOME/REVの選びかた

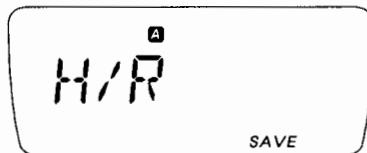
● セットモード時のアドレスナンバー “21”

 キーを押したときの動作を、“ホームチャンネル”にするか“リバース動作”にするかを選ぶことができます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けます。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を“KEY-21-”にあわせます。



3. DIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわして“H/R”にあわせます。



5. DIALツマミを押して、DIALツマミをまわすと、

HOME (ホームチャンネル)



REV (リバース動作)

と繰り返しますので、希望の状態にあわせます。

5. 最後にPTTスイッチを押して終了です。

アドバイス

“リバース動作”にあわせた場合でも、 キーに続けて  キーを押すことにより、ホームチャンネルを呼び出すことができます。

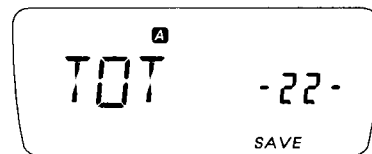
MONI/T.CALLの選びかた

- セットモード時のアドレスナンバー “21”
常に “MONI” の状態で使用してください。

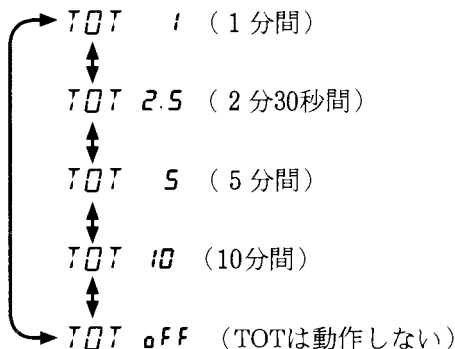
TOTの時間の変えかた

- セットモード時のアドレスナンバー “22”
連続送信を行ったときに、自動的に受信状態に戻る時間をあわせることができます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けます。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を
“TOT - 22 -”
にあわせます。



3. DIALツマミを押して、DIALツマミをまわすと、



と繰り返しますので、希望の状態にあわせます。

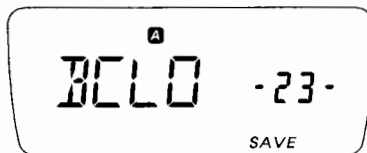
5. 最後にPTTスイッチを押して終了です。

ビジーチャンネルロックアウトのON/OFF

● セットモード時のアドレスナンバー “23”

信号を受信中は、送信状態にならないようにすることができます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けます。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を
“BCLD-23-”
にあわせます。



3. 再びDIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわすと、
BCLD on (信号を受信中は送信できません)
↑↓
BCLD off (信号を受信中でも送信できます)
と繰り返しますので、希望の状態にあわせます。
5. 最後にPTTスイッチを押して終了です。

SFTのON/OFF

● セットモード時のアドレスナンバー “24”

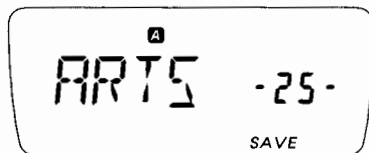
この機能は、常に“OFF”の状態で使用してください。

ARTS時間の変えかた

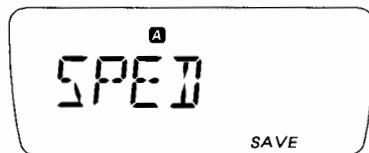
● セットモード時のアドレスナンバー “25”

ARTS機能を動作させたときの、確認信号を送出する間隔(時間)を変えることができます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けます。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を“ARTS -25-”にあわせます。



3. 再びDIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわして“SPEED”にあわせます。



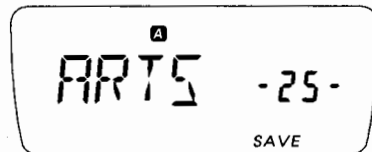
5. DIALツマミを押して、DIALツマミをまわすと、
 SPEED 25 (25秒ごとに確認信号を送出します)
 ↑
 SPEED 15 (15秒ごとに確認信号を送出します)
 と繰り返しますので、希望の状態にあわせます。
6. 最後にPTTスイッチを押して終了です。

ARTS動作時のビープ音ON/OFF

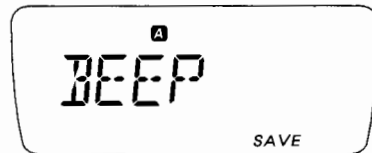
● セットモード時のアドレスナンバー “25”

ARTS機能が動作しているときのビープ音(確認音)をON/OFFすることができます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けます。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を“ARTS -25-”にあわせます。



3. 再びDIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわして“BEEP”にあわせます。



5. DIALツマミを押して、DIALツマミをまわすと、
 BEEP ALL (すべてのビープ音が鳴ります)
 ↓
 BEEP Rang (交信圏内にいるときの確認音だけを“OFF”にします)
 ↓
 BEEP OFF (ビープ音は鳴りません)
 と繰り返しますので、希望の状態にあわせます。
6. 最後にPTTスイッチを押して終了です。

CW IDのあわせかた

● セットモード時のアドレスナンバー “26”

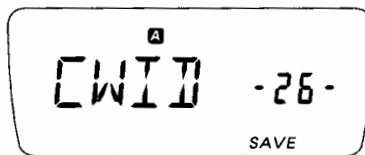
ページャー運用時に自動応答機能を動作させたときや、ARTS機能動作時に、CW IDに登録した文字または数字などをモールス符号で送出することができます。



◎ただし、ARTS機能動作時には、DCSコードを送出しませんので、当人同士はこのCW IDは聞くことができません。

◎CW IDを動作させるには、第三級アマチュア無線技士以上の資格を持ち、F2の電波型式が免許されていなければなりません。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けます。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を“[WI] 26-”にあわせませす。



3. DIALツマミを押して、DIALツマミをまわすと、
[WI] on (登録されたIDをモールス符号で送出します)



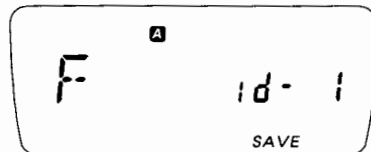
[WI] off (CW IDは動作しません)

と繰り返しますので、希望の状態にあわせませす。

アドバイス

“[WI] off” にあわせたま場合は 7. の操作を行ってください。

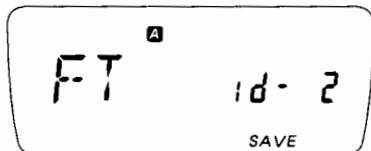
4. DIALツマミを押し、下表を参考にしてDIALツマミをまわし、1番目の文字をあわせませす。



CW IDで表示できる文字

スペース	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	1	2	3
4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F		
G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R		
S	T	U	V	W	X	Y	Z						

5. 再びDIALツマミを押すと、次の文字をあわせることができるようになります。



6. 上記 4. ~ 5. の操作を繰り返し、最後の文字まであわせて行きます。(最大16文字)
7. 最後にPTTスイッチを押して終了です。

アドバイス

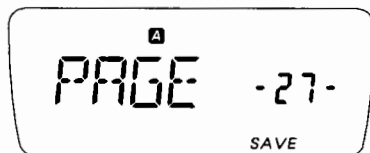
7. の操作を行う前に  キーを押すと、あ寄せた文字のモールス符号を、実際に鳴らして確認することができます。

ページャーコード送出スピードの変えかた

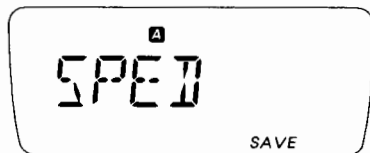
● セットモード時のアドレスナンバー “27”

ページャーコードを送出するスピードを変えることができます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けます。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を
“PAGE -27-”
にあわせます。



3. DIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわして“SPEED”にあわせます。



5. DIALツマミを押します。
6. DIALツマミをまわすと、

SPEED 50 (1秒間に10桁のコードを送るスピード)
 ↑↓
 SPEED 100 (1秒間に5桁のコードを送るスピード)

と繰り返しますので、希望のスピードにあわせま
す。

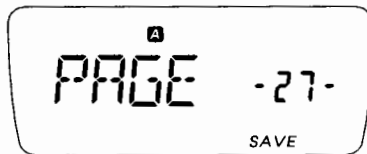
6. 最後にPTTスイッチを押して終了です。

ページャーディレイタイムの変えかた

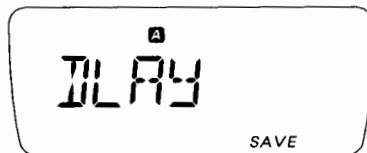
● セットモード時のアドレスナンバー “27”

送信してから何秒後にページャーコードを送出するかを選びます。

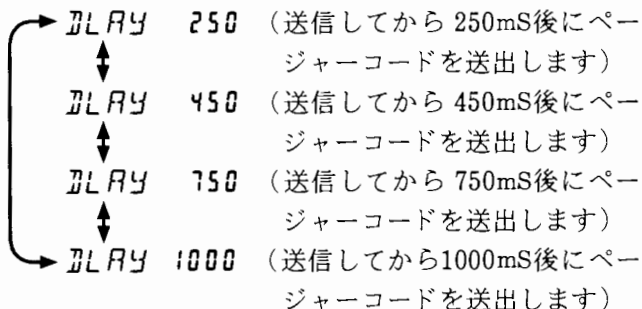
1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けます。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を“PAGE -27-”にあわせませす。



3. DIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわして“DELAY”にあわせませす。



5. DIALツマミを押して、DIALツマミをまわすと、



と繰り返しますので、希望のディレイタイムにあわせませす。

6. 最後にPTTスイッチを押して終了です。



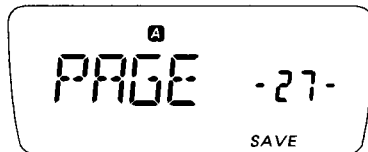
レピーター局を使用してページャー運用を行うときには、誤動作防止のため、ページャー運用時の送信ディレイタイムを“1000mS”にあわせませてください。

ページャー呼び出し音の回数の変えかた

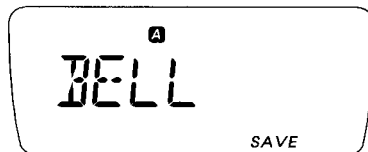
● セットモード時のアドレスナンバー “27”

ページャー運用時に呼び出されたときに鳴る呼び出し音の回数を変えることができます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けます。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を“PAGE -27-”にあわせます。

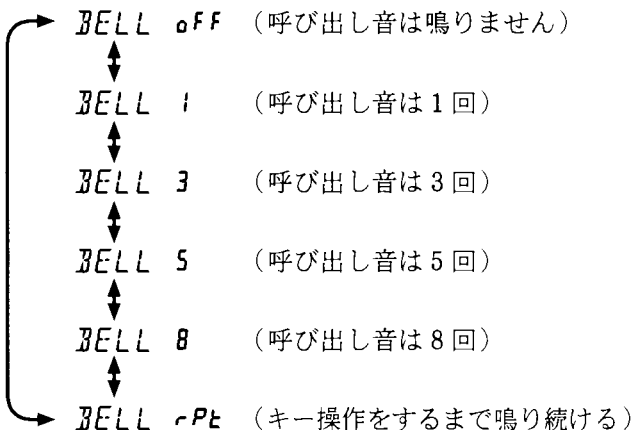


3. DIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわして“BELL”にあわせます。



5. DIALツマミを押します。

6. DIALツマミをまわすと、



と繰り返しますので、希望の回数にあわせます。

7. 最後にPTTスイッチを押して終了です。



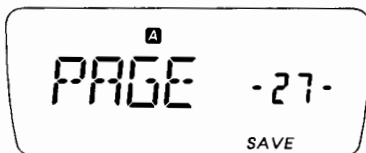
呼び出し音の回数を“OFF”にあわせると、ページャー運用時の“”は表示されなくなります。

ページャーアンサーバックの選びかた

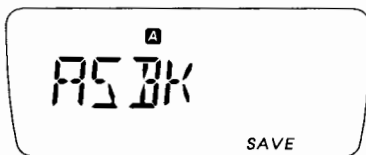
● セットモード時のアドレスナンバー “27”

ページャー運用時に呼び出されたときに、自動的に応答したり、受信したページャーコードをそのまま送信（ページャーコードを中継する）したりすることができます。

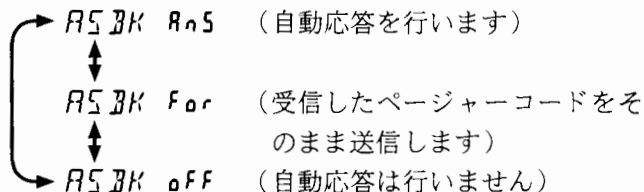
1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けます。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を“PAGE -27-”にあわせます。



3. DIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわして“RS BK”にあわせます。



5. DIALツマミを押してDIALツマミをまわすと、



と繰り返しますので、希望の状態にあわせます。

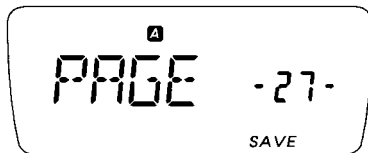
7. 最後にPTTスイッチを押して終了です。

アンサーメッセージのON/OFF

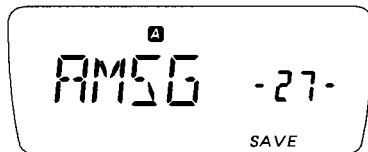
● セットモード時のアドレスナンバー “27”)

ページャー運用時に自動応答機能を動作させたとき、*REC 1*または*REC*に録音された音声を送出する機能をON/OFFすることができます。

1. **DIALツマミ**を0.5秒以上押し続けます。
2. **DIALツマミ**をまわして、ディスプレイの表示を“*PAGE -27-*”にあわせます。



3. **DIALツマミ**を押します。
4. **DIALツマミ**をまわして“*AMSG*”にあわせます。



5. **DIALツマミ**をまわすと、

AMSG on (自動応答を行ったときに録音された音声を送信します)
 ↑↓
AMSG off (音声の送信は行いません)

と繰り返しますので、希望の状態にあわせます。

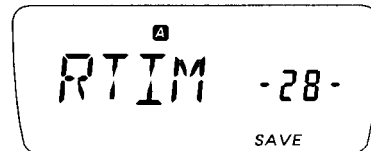
6. 最後に**PTTスイッチ**を押して終了です。

録音チャンネル*REC2*時間のあわせかた

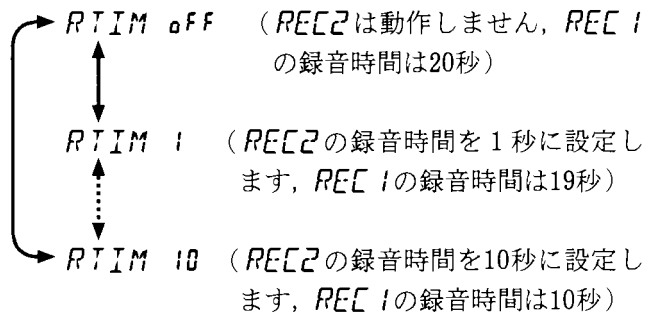
● セットモード時のアドレスナンバー “28”

録音チャンネル2(*REC2*)に録音できる時間をあわせることができます。

1. **DIALツマミ**を0.5秒以上押し続けます。
2. **DIALツマミ**をまわして、ディスプレイの表示を“*RTIM -28-*”にあわせます。



3. **DIALツマミ**を押します。
4. **DIALツマミ**をまわすと、



と繰り返しますので、希望の状態にあわせます。

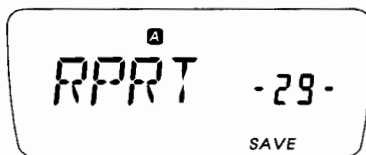
5. 最後に**PTTスイッチ**を押して終了です。

音声録音機能の上書禁止

● セットモード時のアドレスナンバー “29”

一度録音した内容に、誤って上書録音してしまわないように、録音機能のみを一時的に“OFF”にすることができます。（音声の再生は動作します）

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けます。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を“RPRT -29-”にあわせます。



3. DIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわすと、
RPRT on （録音機能の動作が停止します）



RPRT off （録音機能は動作します）

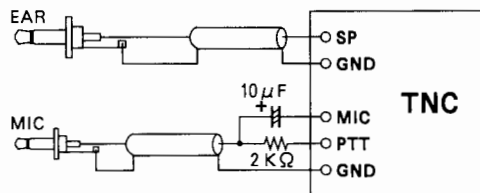
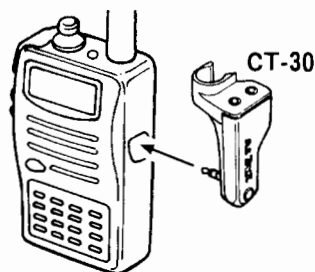
と繰り返しますので、希望の状態にあわせます。

5. 最後にPTTスイッチを押して終了です。

その他

パケット通信

本機でパケット通信を行うときには、オプションのマイク変換アダプター“CT-30”を使用し、お手持ちのパケット通信用TNCの各端子と接続してください。



なお、本機のMIC/EARジャックには、入力レベルを調節する回路はありませんので、入力レベルの調節は、TNC側の入力レベル調整用ボリュームで行ってください。

また、MIC/EARジャックからの出力レベルは、本体上面部のVOLツマミで調節してください。

アドバイス ◎本機でパケット通信を行うときには、バッテリーセーブを“OFF”にしてください。詳しくは、54ページの“バッテリーセーブ”をご覧ください。

◎TNCとパーソナルコンピューター間の接続方法は、TNCの取扱説明書に従って行ってください。



◎一般的にパーソナルコンピューターは、雑音が発生する可能性があり、本機をパーソナルコンピューターの近くで使用するとこの雑音により受信が妨害されることがあります。このような場合には、ホットカブラやノイズフィルターなどを通して接続するか、パーソナルコンピューターを本機からできるだけ離してお使いください。

◎多量のデータを連続して送信するときには、本機の発熱に十分ご注意ください。

バックアップについて

本機は、メモリーチャンネルの内容や電源スイッチを切る前にあわせていた状態を記憶する、バックアップ機能を備えていますので、電池ケース（またはNi-Cd電池パック）を外した場合でもメモリーなどCPUの内容を、長期間記憶し続けることができます。

バックアップを動作させるためにバックアップ用電池（リチウム電池）を組み込んでありますが、このバックアップ用電池が消耗すると、メモリーした内容やセットモードであわせた状態が初期状態（工場出荷時の状態）に戻ったりしますので、メモリー内容やセットモードであわせた内容などは、メモなどで保存しておくことをお勧めします。

なお、バックアップが動作しなくなり、バックアップ用電池（リチウム電池）の消耗と思われましたら、最寄りの当社営業所/サービスにご相談ください。有償で交換させていただきます。

リセット

メモリーチャンネルの内容や、セットモードであわせた内容を消去したいときには、次の手順で本機を初期状態に戻してください。

1. 一度電源を“OFF”にします。
2. **DIALツマミ**と**MONIスイッチ**を押しながら電源を“ON”にすると、“AL RST pr S F”の文字がディスプレイに表示されます。



3. 続けて  キーを押すと本機は初期状態（工場出荷時の状態）に戻ります。
- アドバイス**  キー以外のキーを押すと、リセットを中止することができます。

クローン操作

1 台のFT-50 (送り側) にあわせてあるメモリーなどの情報を、他のFT-50 (受け側) に転送して複製することができます。

1. 送り側、受け側の電源スイッチを両方とも“OFF”にし、両方のMIC/EARジャックをオプションのクローンケーブル“CT-27”で接続します。
2. 送り側と受け側の電源を、DIALツマミとPTTスイッチを同時に押しながら“ON”にします。
(ディスプレイに“CLON”が表示されます)

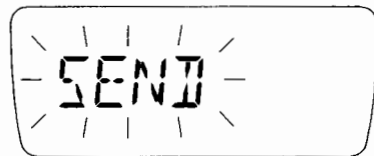
CLON

3. 受け側のMONIスイッチを押します。
(ディスプレイに“WAIT”が表示されます)

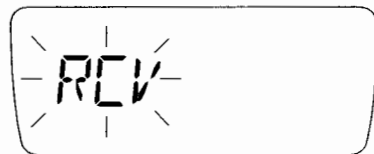
WAIT

4. 送り側のPTTスイッチを押します。
(送り側のディスプレイに“SEND”が点滅し、受け側の表示が“RCV”の点滅に変わります)

送り側

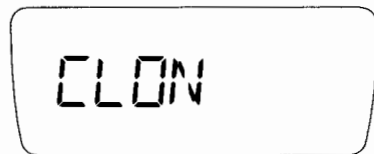


受け側

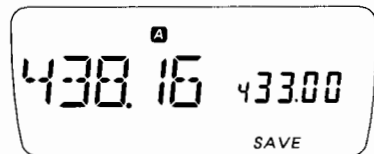


5. 転送が完了すると送り側の表示は“CLON”に、受け側のディスプレイは通常が表示に戻ります。

送り側



受け側



6. クローンケーブルを外してから電源を“OFF”にして、クローン操作は終了です。



クローン操作中、ディスプレイに“[ERR]”が表示された場合、ケーブルの接続などを確認して、初めから操作をやり直してください。

故障かな？と思ったら（修理を依頼する前に、ちょっとお確かめください。）

■ 電源が入らない！

- 乾電池は正しく電池ケースに挿入してありますか？
 - 乾電池は指定通りに、プラス（+）マイナス（-）の極性を間違えず、正しく電池ケースに挿入してください。（13 14ページ）
- 外部電源の接続は間違っていないですか？
 - 外部電源を使用するときには、必ずオプションのシガープラグ付外部電源用アダプター“E-DC-5B”や、外部電源用ケーブル“E-DC-6”を使用してください。（13 120ページ）
- 電池または電源の電圧は正常ですか？
 - 本機の動作電圧範囲は4.0～16.0Vです。この範囲内の電圧でご使用ください。（13 7ページ）

■ 音が出ない！！

- 音量が低くなっていませんか？（13 18ページ）
- スケルチレベルが深くなっていませんか？（13 22ページ）
- トーンスケルチ（FTT-12使用時のみ）またはDCS運用になっていませんか？
 - トーンスケルチ運用またはDCS運用中は、自局の設定したトーン信号やDCSコードと同じコードを伴った信号を受信するまでは、音は出ません。（トーンスケルチ 13 77ページ）
（DCS運用 13 41ページ）
- ページャー（FTT-12使用時）が動作状態になっていませんか？
 - ページャーが動作しているときには、自局のコードメモリーにメモリーしてある、いずれか1つのページャーコードと同じ組み合わせのページャーコードを受信するまでは、音は出ません。（13 67ページ）
- 電池または電源の電圧は正常ですか？
 - 本機の動作電圧範囲は4.0～16.0Vです。この範囲内の電圧でご使用ください。（13 7ページ）

■ 受信できない！！

●アンテナは正しく接続してありますか？

○本機に使用するアンテナは、自局の運用形態にあったアンテナを選び、本体上面部にあるANT端子に接続してください。（ 8 ページ）

●アンテナのマッチングは正しく取れていますか？
“外部アンテナ使用時”

○無線機は、アンテナによって受信感度や送信電波の飛び具合が大きく影響しますので、アンテナと同軸ケーブル・同軸ケーブルと本機との間の整合を確実にとり、SWRが低い状態で使用するようにしてください。（ 8 ページ）

■ 電波が出ない！！！！

●PTTスイッチを確実に押していますか？

（ 20ページ）

●PTTロック状態になっていませんか？

○ディスプレイに“**PL**”の表示が点灯しているときには**PTTスイッチ**がロックされている状態です。PTTロックを解除してください。（ 91ページ）

●アンテナは確実に接続してありますか？

○アンテナは必ず、付属のホイップアンテナ“**YHA-58**”またはインピーダンス 50Ω の144MHz/430MHz帯用アンテナを使用してください。

（ 8 ページ）

●送信オフセット運用で、送信時にオフバンドになっていませんか？

○送信時にオフバンドになると、ディスプレイに“**ERROR**”の表示が出て、送信状態になりません。（ 85, 86ページ）

●電池または電源の電圧は正常ですか？

○本機の動作電圧範囲は4.0～16.0Vです。この範囲内の電圧でご使用ください。また送信時に、電圧降下を起こすような電源では、本機の性能を十分に発揮することはできません。（ 7 ページ）

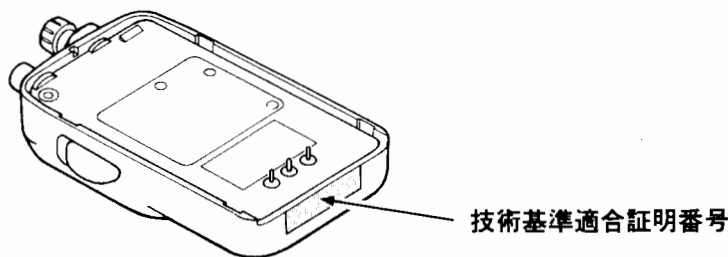
アマチュア無線局免許申請書類の書きかた

本機は技術基準適合機ですので、「無線局事項書及び工事設計書」と「アマチュア局の無線設備の技術基準適合証明書（開局の場合）」または「技術基準適合証明書発行願（変更“取替え及び増設”の場合）」に技術基準適合証明番号を記入すれば、「無線局事項書及び工事設計書の一部分（次ページから始まる記入例の※印の部分）」と「送信機系統図」の記入を省略することができます。

また、他の“技術基準適合機ではない無線設備”と一緒に保証認定で免許申請を行う場合でも、本機に関しては技術基準適合証明番号を記入するだけで、「無線局事項書及び工事設計書の一部分」と「送信機系統図」の記入を省略することができます。

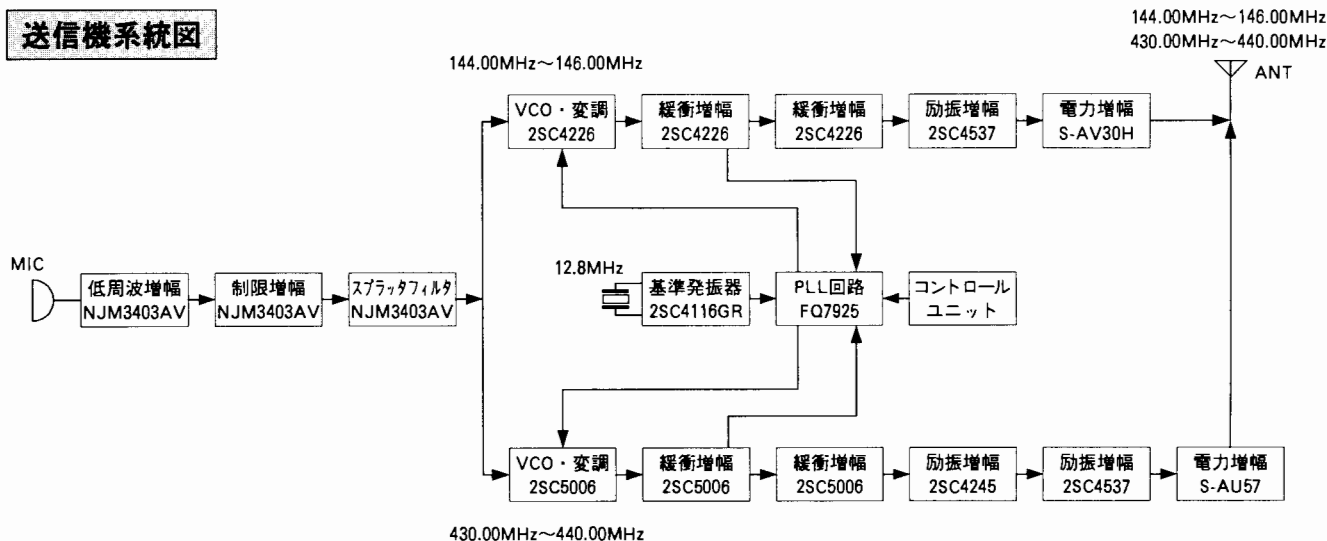
ただし、本機にパケット通信用のTNCなどの付属装置を接続して申請する場合には、本機は技術基準適用機外になりますので、基準適合証明番号は記入せず、次ページから始まる記入例を参考に、「無線局事項書及び工事設計書」の各項目（記入例の※部分）に必要な事項を記入するとともに、114ページに示す“送信機系統図”を添付して申請してください。

技術基準適合証明番号は無線機ごとに異なり、本体底面に貼り付けてある技術基準適合証明シールに記載してあります。



21 希望する周波数の範囲、空中線電力、電波の型式											
周波数帯	空中線電力	電波の型式				周波数帯	空中線電力	電波の型式			
144M	10	F2, F3, , , ,]						, , , , , ,]			
430M	10	F2, F3, , , ,]						, , , , , ,]			
		, , , , , ,]						, , , , , ,]			
23											
工事設計		第 1 送信機		第 2 送信機		第 3 送信機		第 4 送信機			
変更の種類		取替 増設 撤去 変更		取替 増設 撤去 変更		取替 増設 撤去 変更		取替 増設 撤去 変更			
技術基準適合証明番号		ここに「技術基準適合証明番号」を記入します									
※ 発射可能な 電波の型式、 周波数の範囲		F2, F3 144MHz帯 430MHz帯									
※ 変調の方式		リアクタンス変調									
定格出力 ※		5W		W		W		W			
終 段 管	※ 名称個数	144MHz帯 S-AV30H 430MHz帯 S-AU57									
	※ 電 圧	9.2V		V		V		V			
送信中線の型式		単一型				周波数測定装置		A 有(誤差) B 無			
その他の工事設計		電波法第 3 章に規定する条件に合致している				添付図面		☐ 送信機系統図			

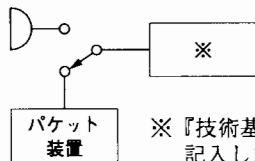
送信機系統図



記入例

本機にパケット通信用のTNCを接続する場合の記入例を示します。

- “送信機系統図” に、次の項目を記入します。



※『技術基準適合証明番号』を記入します



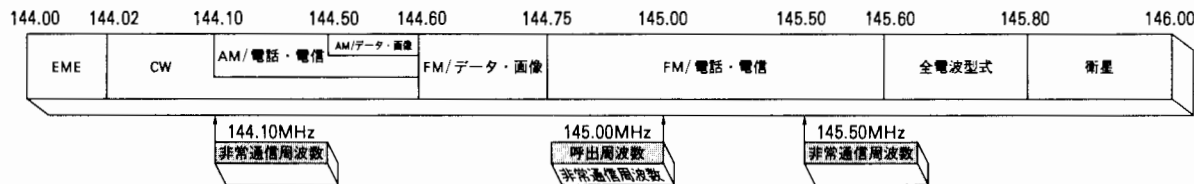
『方式、規格』は、お手持ちのTNCの取扱説明書を参考に、ご記入下さい。

- “アマチュア局の無線設備の保証認定願” に、次の項目を記入します。

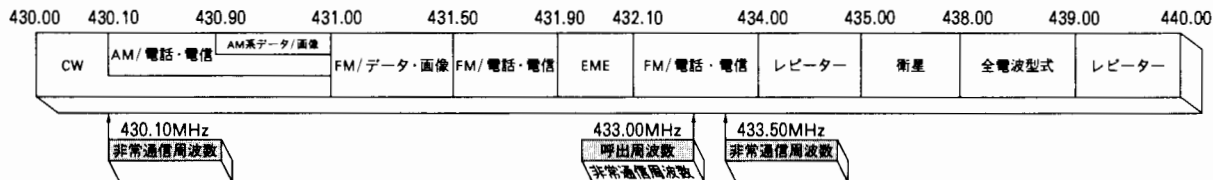
5. 送信機の付属装置

11 名称	12 方式、規格	13 備考(注)
パケット装置	方式：AFSK装置、通信速度：1200ボー、 符号構成：AX.25プロトコル準拠、 周波数偏移：±500Hz、 副搬送波周波数：1700Hz	

144MHz



430MHz



詳細は、財団法人日本アマチュア無線振興協会（JARD）または
社団法人日本アマチュア無線連盟（JARL）にお問い合わせください。

伝送情報及び用途等	アマチュア業務に使用する電波の型式
CW	A1
AM/電話・電信	A2(注1) A3 A3A・A3H・A3J(SSB) A9(注2)
AM/データ・画像	A2(注3) A4 A5J(注4) A9(FAX) A9C(FAX) F1(注3) F4(注5) F5(注6)
FM/電話・電信	F2(注1) F3
FM/データ・画像	F2(注3) F4(注7) F5(注8) F9(FAX)
衛星(注9)	A1 A3A・A3H・A3J(SSB) F1(注3) F2(注3)
EME(注10)	A1 A2(注1) A3 A3A・A3H・A3J(SSB)
レビータ(注11)	F2 F3 F4(注7) F5(注8) F9(FAX)
全電波型式(注12)	A1 A2 A3 A3A A3H A3J A4 A5 A5C A5J A9 A9C F1 F2 F3 F4 F5 F9 P0 P1 P2D P2E P2F P3D P3E P3F P9

注1：A2及びF2は、モース無線電信による通信に使用する電波とする。

注2：A9は、抑圧搬送波両側帯の無線電話の電波とする。

注3：A2、F1及びF2は、データ伝送（機械によって、処理される情報又は処理された情報の伝達）を行う電波とする。

注4：A5Jは、主搬送波を変調した副搬送波で振幅変調（抑圧搬送波単側帯の場合に限る。）してテレビジョン伝送を行うF5に該当しない電波とする。ただし、占有周波数帯幅は、3kHz以下とする。

注5：F4は、主搬送波を周波数変調した副搬送波で振幅変調（抑圧搬送波単側帯の場合に限る。）してファクシミリ伝送を行う電波で、変調信号の帯域幅は3kHz以下とする。

注6：F5は、主搬送波を周波数変調した副搬送波で振幅変調（抑圧搬送波単側帯の場合に限る。）してテレビジョン伝送を行う電波で、変調信号の帯域幅は3kHz以下とする。

注7：F4は、主搬送波を直接に又は周波数変調した副搬送波で周波数変調してファクシミリ伝送を行う電波で、変調信号の帯域幅は3kHz以下とする。

注8：F5は、テレビジョン伝送を行う電波で、変調信号の帯域幅は3kHz以下とする。

注9：衛星は、衛星通信に使用する電波をいう。

注10：EMEは、月面反射通信に使用する電波をいう。

注11：レビータは、社団法人日本アマチュア無線連盟（JARL）のアマチュア業務の中継用無線局（レビータ局）との通信に使用する電波をいう。

注12：全電波型式は、各アマチュア局に指定されるすべての電波型式とする。

定 格

一 般 定 格

送受信周波数範囲：144.000～146.000MHz

430.000～440.000MHz

送受信周波数：5/10/12.5/15/20/25/50kHzの任意のステップ

電波の型式：F2,F3

通信方式：単信方式

周波数偏差：-10℃～+60℃において±5ppm以内

アンテナインピーダンス：50Ω（不平衡）

電源：定格；直流9.6V， マイナス接地

動作可能範囲；

直流4.0V～16.0V， マイナス接地

消費電流：受信定格出力時；約200mA

（電源電圧； 受信スケルチ時；約55mA

直流9.6V時）（バッテリー使用時）

受信バッテリーセーブ時；約24mA

（受信1：セーブ5 平均消費電流）

144MHz帯送信5W出力時；約1.5A

430MHz帯送信5W出力時；約1.6A

オートパワーオフ時；約250μA

使用温度範囲：-20℃～+60℃

ケース寸法：幅57×高さ99×奥行き30mm

Ni-Cd電池パック“FNB-40”使用時

本体重量：約355g

（Ni-Cd電池パック“FNB-40”，

ベルトクリップ，

付属アンテナ“YHA-58”を含む）

送 信 部

定格終段入力：13.5W（144MHz帯）

14.5W（430MHz帯）

送 信 出 力：144/430MHz帯ともに5W

（2.8/1.0/0.1W切り換え可）

変 調 方 式：リアクタンス変調

最大周波数偏移：±5.0kHz（IDCおよびスプラッタフィルター付き）

占有周波数帯幅：16kHz以内

不要輻射強度：1mWかつ60dB以下

マイクロインピーダンス：2kΩ（エレクトレットコンデンサ型）

受 信 部

受 信 方 式：ダブルコンバージョンスーパーヘテロダイン

（144MHz帯上側/430MHz帯下側ヘテロダイン方式）

中間周波数：第一中間周波数；45.1MHz

：第二中間周波数；455kHz

受 信 感 度：144MHz帯

0.16μV（-16dBμ）以下 @12dB SINAD

430MHz帯

0.18μV（-15dBμ）以下 @12dB SINAD

通過帯域幅：15kHz以上/-6dB

選 択 度：35kHz以下/-60dB

低周波定格出力：500mW以上

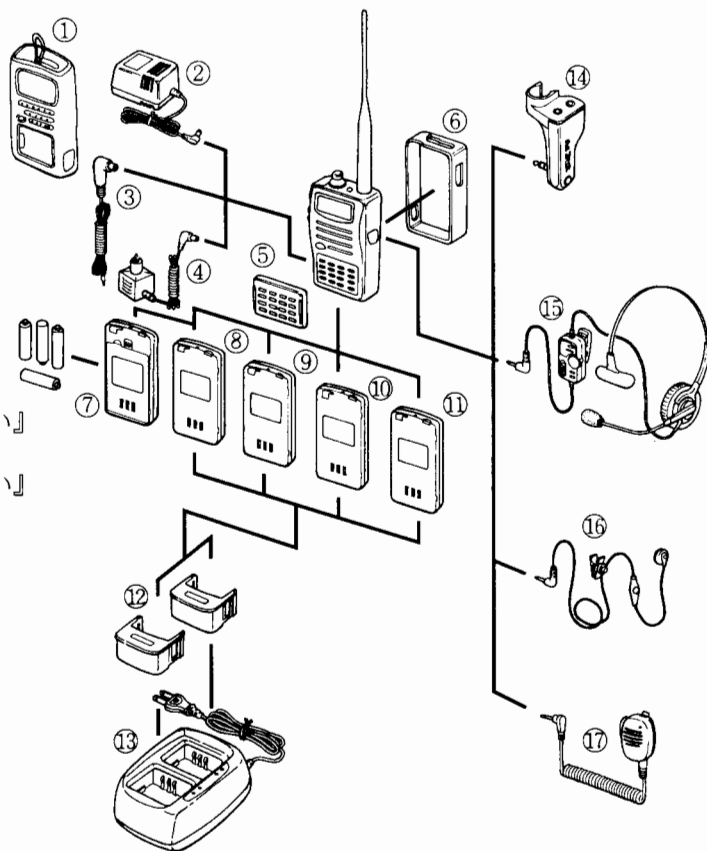
（8Ω THD10% 電源；直流9.6V時）

低周波出力インピーダンス：8Ω

副次的に発する電波等の限度：4000μμW以下（-54dBm）

オプション

- ① CSC-68 : FBA-15/ FNB-41/ -49用ソフトケース
CSC-69 : FNB-40用ソフトケース
- ② NC-60A : FNB-40/ -41/ -42/ -49 用標準充電器
- ③ E-DC-6 : 外部電源用ケーブル
- ④ E-DC-5B : シガープラグ付外部電源用アダプター
- ⑤ FTT-12 : キーパッド
- ⑥ RH-1 : ラバーホルスター
- ⑦ FBA-15 : 電池ケース
『マンガン電池・アルカリ電池専用』
- ⑧ FNB-49 : 6.0V, 600mAh Ni-Cd電池パック
- ⑨ FNB-40 : 6.0V, 650mAh Ni-Cd電池パック
- ⑩ FNB-41 : 9.6V, 600mAh Ni-Cd電池パック
- ⑪ FNB-42 : 9.6V, 1100mAh Ni-Cd電池パック
- ⑫ CA-14 : チャージスリーブ
『“NC-50”と組み合わせてご使用ください』
- ⑬ NC-50 : 急速充電器
『“CA-14”と組み合わせてご使用ください』
- ⑭ CT-30 : マイクアダプター
- ⑮ VC-23 : VOXヘッドセット
- ⑯ MH-37A4B : イヤピースマイク
- ⑰ MH-34B4B : スピーカーマイク
- ⑱ CT-27 : クローンケーブル
- ⑲ PA-17 : バッテリー延長ケーブル



あ

アマチュア無線局免許申請書類の書きかた	112
アンサーメッセージのON/OFF	103
安全上のご注意	6
アンテナについて	8
アンテナの取り付けかた	14

お

オートマチックパワーオフ (APO)	56
オートマチックパワーオフタイムの変えかた	90
オプション	117
音声録音機能 (FTT-12使用時のみ)	60
録音時間の変えかた	61
録音のしかた	62
再生のしかた	65
音声録音機能の上書禁止	104

か

外部電源使用時の注意事項	8
--------------	---

き

キーパッドの取り替えかた	58
キーロックのしかた	55

く

クローン操作	108
--------	-----

こ

故障かな?と思ったら	110
コードスケルチ待ち受け	75
コードスケルチ呼び出し	71
梱包品	4

さ

サブ表示のON/OFF	84
-------------	----

し

シフト方向のあわせかた	85
シフト幅のあわせかた	86
周波数のあわせかた	19
周波数の使用区分について	115

す

スキャン	36
スキャンレジュームの選びかた	88
VFOスキャンのしかた	37
メモリーチャンネルスキャンのしかた	38
メモリーチャンネルスキャンスキップのしかた	38

プログラマブルメモリスキャン(PMS)のしかた	39
スキャンストップランプのON/OFF	88
スケルチ回路のあわせかた	22・82
ステップ幅の変えかた	23・87

せ

セットモード	81
--------	----

そ

送信出力の変えかた	25・82
送信のしかた	20

て

定格	116
ディスプレイの説明	10
ディスプレイの照明を点灯する	25
電源について	7
電源の入れかた/切りかた	18
電池の入れかた	14
デュアルレシーブ	49
VFOモード時のデュアルレシーブ操作	50
メモリーモード時のデュアルレシーブ	51
ホームチャンネル時のデュアルレシーブ	52

と

トーンエンコーダー	40
トーンサーチのしかた	78
トーンスケルチ	77
取り扱い上のご注意	6
トリガーページャー待ち受け	74
トリガーページャー呼び出し	70

は

パケット通信	106
バックアップについて	107
バッテリーセーブ	54・89
ハンドストラップの取り付けかた	16

ひ

ビーブ音のON/OFF	89
ビーブ機能	49
ビジーチャンネルロックアウトのON/OFF	96

へ

ページャーアンサーバック	102
ページャー運用	67
ページャーコードのあわせかた	68
ページャー待ち受け	73
ページャー呼び出し	69
マニュアル操作による呼び出しかた	72
着呼禁止	76
ページャーコードの送出スピードの変えかた	99
ページャーディレイタイムの変えかた	100
ページャー呼び出し音の回数の変えかた	101
ベル機能のON/OFF	92
ベルトクリップの取り付け	16

ほ

ホームチャンネル	29
ボリューム調節のしかた	18
各部の説明	9

め

メモリー	29
シンプレックス・メモリーのしかた	30
セミデュプレックス・メモリーのしかた	31
メモリーチャンネルを呼び出す	32

メモリーの内容をVFOに移動する	33
ダイレクト呼び出しのしかた	32
メモリーチューンのしかた	33
メモリーチャンネルの消しかた	34
メモリーオンリーモード	34
メモリーに名前を付ける	83

も

目次	2
----------	---

よ

用語説明	122
------------	-----

り

リセット	107
------------	-----

れ

レピーター運用	28
レピータシフトリンク機能のON/OFF	87

ろ

録音チャンネル <i>REC2</i> 時間のあわせかた	103
ロックスイッチの動作の変えかた	91

A

ARTS機能	43
ARTS動作時のビーブ音ON/OFF	97
ARTS時間の変えかた	97
ARTS機能を終了させる	45
ARTS機能を動作させる	73
ARS機能ON/OFF	84

B

BUSY/TXランプのON/OFF	93
-------------------------	----

C

CW IDのあわせかた	98
-------------------	----

D

DCS運用	41
DCSサーチのしかた	42
DTMF機能	46
受信したDTMFコードを表示する	79
DTMFメモリーセット	49
DTMFメモリーの呼び出しかた	48
DTMFモードの解除	48

F

FTT-11のキーボードの動作説明	11
FTT-12のキーボードの動作説明	12

H

HOME/REVの選びかた	94
---------------------	----

L

LAMPスイッチの動作の変えかた	93
------------------------	----

T

TOT時間の変えかた	95
TX SAVEのしかた	26
TX SAVEのON/OFF	90

V

VFOデュプレックス機能のON/OFF	86
VFOの切り換えかた	24
VFOプライオリティ	53

YAESU

Performance without compromise.SM

八重洲無線株式会社

営業部 ☎146 東京都大田区下丸子1-20-2

札幌営業所/サービス ☎003 札幌市白石区菊水6条1-1-33 石川ビル ☎011(823)1161
 仙台営業所/サービス ☎983 仙台市若林区大和町5-6-17 ☎022(235)5678
 北関東営業所/サービス ☎332 埼玉県川口市弥平1-5-9 ☎048(222)0651
 南関東営業所 ☎146 東京都大田区下丸子1-20-2 ☎03(3759)9181
 名古屋営業所/サービス ☎457 名古屋市南区戸部町2-3-4 ☎052(811)4949
 大阪営業所/サービス ☎542 大阪市中央区上汐1-4-6 吉井ビル ☎06(764)4949
 広島営業所/サービス ☎733 広島市西区己斐本町2-12-30 SKビル ☎082(273)2332
 福岡営業所/サービス ☎812 福岡市博多区上牟田1-16-26 第2山本ビル ☎092(482)4082
 サービスセンター ☎332 埼玉県川口市弥平1-5-9 ☎048(222)0651

© 1996 八重洲無線株式会社

禁 無断転載・複写

E07520002 (9603p-BA)